

3. 本部事業に係る事項

3・1 2012年度(第90期)定時社員総会・付随行事

行事	開催日	会場	参加者数
定時社員総会	2013. 4. 19	明治記念館	245名
付随行事 総会特別企画 『部門大集合「部門から社会への発信」全部門が語る』	2013. 4. 19		140名

2013年2月1日

正員諸君

東京都新宿区信濃町35番地
一般社団法人 日本機械学会
会長 佐藤 順一

一般社団法人日本機械学会 2012年度(第90期)定時社員総会招集ご通知

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
さて、本会2012年度(第90期)定時社員総会を下記により開催致しますので、お繰り合わせご出席願いたく、この段ご通知申し上げます。

記

敬具

◇ 定時社員総会

日時 2013年4月19日(金) 15時30分～17時50分
会場 明治記念館(東京都港区元赤坂2-2-23 TEL 03-3403-1171(大代表))
議題
1. 2012年度(第90期)事業報告の件
2. 2012年度(第90期)会計報告の件
3. 名誉員推薦の件
4. 2013年度(第91期)事業計画の件
5. 2013年度(第91期)事業予算の件
6. 2013年度(第91期)理事、監事選出の件

挨拶 新旧会長
表彰 1. 名誉員推薦状および名誉員章の贈呈
2. 日本機械学会賞、優秀製品賞の贈呈

◇ 会員パーティ

日時 2013年4月19日(金) 18時00分～19時30分
会場 明治記念館
参加費 5000円 事前送金並びに当日会場にて申し受けますが、
参加人数確認のため、FAXかE-mailでお申し込み下さい。
日本機械学会 総務グループ宛、電話 (03) 5360-3500、
FAX (03) 5360-3508、E-mail: general@jsme.or.jp

◇ 定時社員総会特別企画

部門大集合「部門から社会への発信」全部門が語る

日時 2013年4月19日(金) 10時00分～15時10分 総会同一会場(入場無料)
定員200名になり次第締め切ります。E-mailか下記ホームページからお申し込み下さい。 日本機械学会総務グループ宛 E-mail: general@jsme.or.jp,
http://www.jsme.or.jp/conference/sokai-sp/

趣旨 部門は、本部、支部と共に日本機械学会の活動を支えており、特に各専門領域を担う基幹組織です。各部門が網羅する専門分野を独自に展開することは重要ではありませんが、同時に外部にみえる形で常に情報発信することが求められています。そこで、2006年の通常総会時に付随する特別企画として、全部門長が一室に集まる場を設定し、部門がカバーする各領域の技術動向と今後5年程度の将来展望を示していただきました。この企画は日本機械学会がカバーする領域を短時間に概観できることから大変好評でした。前回から7年が経ち、それぞれの部門が認識している情勢の変化が予想されることから、今回2回目の部門大集合「部門から社会への発信、全部門が語る」を企画しました。機械工学・機械技術の全貌を浮き彫りにし、改めて学会の各組織が相互にその役割を再確認する機会とし、同時に、学会の活動の方向性を総括的に社会に明示して、学会の組織的な取り組みを発信することを目的としています。各部門が社会にどのような価値を提供しているのか、社会的課題の解決にどのように貢献するのかなど、部門活動と社会との関係を意識して展望を示すものです。皆様のご参加をお待ちしております。

◇ 挨拶 機会にあたって 日本機械学会 会長 金子 成彦

◇ 講演内容 10分/件 (総司会 日本機械学会 庶務理事)

順序	開始時間	終了時間	部門名	部門役職	発表者名	所属	発表テーマ
1	10.10	10.20	材料力学部門	部門長	渋谷陽二	大阪大学大学院	“死の谷”を乗り越えて
2	10.20	10.30	流体工学部門	部門長	加藤千幸	東京大学	流体工学分野の現状と今後の展望
3	10.30	10.40	熱工学部門	部門長	近久武美	北海道大学大学院	社会的課題と熱工学が果たす役割
4	10.40	10.50	機械力学・計測制御部門	部門長	吉村卓也	首都大学東京大学院	解析力が差をつける!
休憩15分							
5	11.05	11.15	計算力学部門	部門長	吉村 忍	東京大学大学院	社会のための計算力学
6	11.15	11.25	機械材料・材料加工部門	部門長	浅沼 博	千葉大学大学院	M&P部門が支える機械工学とその未来
7	11.25	11.35	機素潤滑設計部門	部門長	岩井善郎	福井大学大学院	機械の基盤を支える機素潤滑設計部門の活動
8	11.35	11.45	設計工学・システム部門	部門長	西脇真二	京都大学大学院	設計工学・システム工学の現状と将来
9	11.45	11.55	生産加工・工作機械部門	副部門長	渋谷哲郎	三井精機工業(株)	グローバルな競争力を牽引するものづくり技術
10	11.55	12.05	生産システム部門	副部門長	塩谷景一	三菱電機(株)	生産システム部門の活動について
休憩60分							
11	13.05	13.15	エンジンシステム部門	部門長	富田栄二	岡山大学大学院	エンジンシステム部門の現状と課題
12	13.15	13.25	動力エネルギーシステム部門	部門長	坂井 彰	(株)IHI	東日本大震災におけるエネルギーインフラの被害調査、分析と将来に向けての提言
13	13.25	13.35	環境工学部門	部門長	川島 豪	神奈川工科大学	環境工学部門 - 一人間中心の先進サステナブル都市に向けて-
14	13.35	13.45	産業・化学機械と安全部門	副部門長	戸枝 敏	富士電機(株)	産業・化学機械における安全の動向
15	13.45	13.55	技術と社会部門	部門長	星 朗	東北学院大学	願わくはわれら、技術と社会の懸け橋とならん
休憩15分							
16	14.10	14.20	バイオエンジニアリング部門	部門長	高久田和夫	東京医科歯科大学	医療機器の実用化:安全性・有効性と規制
17	14.20	14.30	ロボティクス・メカトロニクス部門	副部門長	新井史人	名古屋大学大学院	未来を拓くロボティクス・メカトロニクス
18	14.30	14.40	情報・知能・精密機器部門	部門長	岡田亮二	(株)日立製作所	情報・知能・精密機器の現状と将来
19	14.40	14.50	交通・物流部門	副部門長	藤田 聡	東京電機大学	社会の基盤を支える交通と物流の最前線
20	14.50	15.00	宇宙工学部門	副部門長	古谷 寛	東京工業大学大学院	宇宙工学の挑戦と未来
21	15.00	15.10	マイクロ・ナノ工学部門	部門長	佐藤一雄	愛知工業大学	マイクロ・ナノ工学で新産業を興す
休憩20分							

8月7日は機械の日、8月1日～7日は機械週間です。

4. 会誌事業に係る事項

4・1 定期刊行物（会誌）

日本機械学会誌

今期に発行した日本機械学会誌は第1132号～第1143号の12冊で、次のテーマで編集した。

- 2013年3月号 特集 食のものづくり
〔メカライフ編修委員会〕
- 4月号 特集 新時代のエネルギー技術
- 5月号 小特集 身近に感じられる宇宙開発
- 6月号 特集 住のものづくり
〔メカライフ編修委員会〕
- 7月号 小特集 流体ではない流れ
- 8月号 特集 機械工学年鑑
- 9月号 特集 楽のものづくり
〔メカライフ編修委員会〕
- 10月号 特集 大地震に備える
—耐震・免震・制振への機械技術開発—
- 11月号 小特集 眠りの科学とその応用
—よい眠りで豊かで明るい生活を—
- 12月号 特集 起のものづくり
〔メカライフ編修委員会〕
- 2014年1月号 特集 再生医療に挑戦する機械工学
- 2月号 小特集 生物に学ぶ機械工学
～持続可能な社会を拓くバイオミメティクス～

本文938ページ、会告278ページ、広告68ページ、差込広告

10ページで、総ページ1294ページである。

詳細は表1参照。

4・2 会誌編修部会

会誌編修部会：部会長（委員長） 福井茂寿（編修理事）、他28名、開催4回

1. 日本機械学会誌を発行した。（詳細4・1参照）
2. 特記事項
 - i) 2014年後半（2014年7月号、10月号、11月号）、2015年前半（2015年1月号、2月号、4月号）の企画テーマを決定した。
 - ii) 連載講座「機械工学は21世紀を拓けるか？」を2013年12月号で終了し、新連載講座「ブレイクスルーの原点」を2014年1月号より開始した。
 - iii) 2013年8月号「機械工学年鑑」特集号の表紙に、2013年度機械遺産に認定した6件の写真を掲載した。
 - iv) 2013年10月に「課題解決型イノベーション推進の時代における日本機械学会の役割」と題して座談会を開催し、2014年1月号に掲載した。

メカライフ編修委員会：委員長 下村芳樹 他41名、コスポンデント16名、開催4回

1. 日本機械学会誌の2013年3月、6月、9月、12月の各号を発行した。（詳細4・1参照）
2. 上記1項の各号にグラビアページを企画し、掲載した。
3. 2014年3月号、6月号の企画テーマを決定した。

表1 日本機械学会誌

（数値はページ数）

項目 号	記事 〔（ ）内は編数〕	ピックス	委員会 報告、 支部・部 門だより	その他	会報	小計	会告	広告	合計	差込 広告	総ページ数	
No.1132	3月号	63 (28)	3	2	12	6	86	14	6	106	2	108
No.1133	4月号	49 (13)	2	0	15	2	68	30	6	104	2	106
No.1134	5月号	37 (11)	2	2	63	2	106	20	10	136	2	138
No.1135	6月号	54 (24)	2	3	11	20	90	26	6	122	0	122
No.1136	7月号	38 (10)	2	3	7	8	58	32	4	94	2	96
No.1137	8月号	90 (27)	0	4	9	3	106	28	4	138	0	138
No.1138	9月号	44 (23)	4	2	24	2	76	32	6	114	2	116
No.1139	10月号	49 (13)	4	5	9	1	68	24	6	98	0	98
No.1140	11月号	41 (11)	4	4	7	4	60	22	6	88	0	88
No.1141	12月号	55 (26)	4	0	14	15	88	20	4	112	0	112
No.1142	1月号	42 (12)	4	1	20	3	70	12	4	86	0	86
No.1143	2月号	43 (11)	2	7	8	2	62	18	6	86	0	86
計		605 (209)	33	33	199	68	938	278	68	1284	10	1294
前年度合計		602 (220)	31	54	187	64	938	298	104	1340	12	1352

5. 出版事業に係る事項

5・1 論文編修部会

論文編修部会：部会長（委員長）花村克悟（編修理事），編修委員42名，校閲委員1226名，開催2回

1. 日本機械学会論文集A, B, C編 各12号を（独）科学技術振興機構（JST）が運営するWebサイト「J-STAGE」にて電子版として無料公開した。（詳細2・5参照）
2. 特記事項
 - i) 2013年1月～8月までの投稿数は688件（内技術論文56件，ノート81件）である。
 - ii) 論文編修委員会（A編，B編，C編）製作による論文編修委員会ニュースを毎月1回関係部門登録者に配信し，論文掲載目次と論文集の現況を伝えた。
 - iii) 新学術誌への移行に合せて，多くの意見交換を行った。

5・2 新学術誌創刊準備委員会

新学術誌創刊準備委員会：委員長 久保司郎 他36名，開催6回

新学術誌創刊準備委員会幹事会：委員長 久保司郎 他15名，開催7回

1. 昨年度の再編検討委員会にて検討された新学術誌創刊に向けて，具体的な検討を行う委員会として発足した。
2. 部門英文ジャーナルについては，Journal of Fluid Science and Technology, Journal of Thermal Science and Technology, Journal of Biomechanical Science and Engineering, Journal of Advanced Mechanical Design, Systems, and Manufacturingの4誌は継続することに決まった。（独）科学技術振興機構（JST）が運営するWebサイト「J-STAGE」にて電子版として無料公開した。（詳細2・5参照）
3. 部門英文ジャーナルJournal of Environment and Engineering, Journal of Solid Mechanics and Materials Engineering, Journal of System Design and Dynamics, Journal of Power and Energy Systems, Journal of Computational Science and Technology, Journal of Space Engineering, Journal of Mechanical Systems for Transportation and Logisticsの7誌は，2013年12月にて終了となった。（独）科学技術振興機構（JST）が運営するWebサイト「J-STAGE」にて電子版として無料公開した。（詳細2・5参照）
4. 新学術誌創刊に向けて，分野（カテゴリ）の調整および編修委員会規定，投稿規定，校閲方針，テンプレート（原稿執筆の手引きを兼ねる）等の検討・整備を行った。
5. 新学術誌として，Mechanical Engineering Reviews, 日本機械学会論文集/Transactions of the JSME (in Japanese), Mechanical Engineering Journalの3誌の発刊を行った。（独）科学技術振興機構（JST）が運営するWebサイト「J-STAGE」にて電子版として無料公開した。（詳細2・5参照）
6. Mechanical Engineering Lettersの発刊計画を立てた。
7. 準備委員会とは別に，学術誌Editor会議を行い，編修方針等の意思統一を諮った。トムソン・ロイター社を招いてインパクトファクターに関する講演会も併設して行った。

5・3 出版センター

出版センター：センター長 黒坂 俊雄 他16名，開催5回

1. 直営出版物の発行
 - i) JSMEテキストシリーズ 機械工学のための数学，機械工学のための力学
 - ii) 東日本大震災合同調査報告 機械編
 - iii) JSME S NC2-2013発電用原子力設備規格設計・建設規格（2013年追補）II編高速炉規格，JSME S KA1-2013 核融合設備規格 超伝導マグネット構造規格（2013年版）
2. 委託出版物の発行
 - i) なし
3. 新規直営・委託出版の設置および解散
 - i) 新規の直営出版分科会の設置・解散はなかった。
 - ii) 委託出版分科会の新規設置はなく，1件の分科会を解散した。
4. 販売促進・在庫管理
 - i) 新刊本発行とともにインフォメーションメールにて案内配信を行った。

- ii) 計算力学技術者認定試験1・2級受験者対象「合格応援キャンペーン」（受付期間：2013年10月15日～2013年12月20日）を実施した。対象者は2013年度計算力学技術者認定試験1・2級受験者に限り，会員外でも会員特価にて対象書籍を販売。専用HPの立ち上げ，認定事業専用HPでの告知，認定事業委員会発行の標準問題集へ対象書籍を参考文献として詳細に掲載することにより周知を行なった。

- iii) 年次大会会場でブックフェアを実施した。
- iv) 2014年1月末，年度末での書籍購入を促すため，書籍刊行案内のインフォメーションメールを送信した。

5. 機械工学便覧DVD化

- i) 本会発行書籍の機械工学便覧は，本会の英知を集約した重要かつ有用なコンテンツである。2012年度に実施したアンケート調査の結果を考慮し，需要があるものと判断し，2014年3月の発行に向けて作業を行っている。

- ii) 著作権譲渡および転載許諾については，電子メール，往復ハガキ，書面にて依頼した。執筆者が故人の場合には相続人等にも依頼した。著作権譲渡について学会誌11月号にて告知を行った。

6. 新規出版計画に関する検討

- i) 新刊発行点数を増やして売上規模を大きくしていくため，前年度に行った部門・専門会議・推進会議へアンケート調査の回答を元に多様な形態での新規出版の可能性を検討した。今後，部門・専門会議・推進会議に対して，新規出版を具体的に検討できるように，判型，頁数，価格，経費等の情報を掲載した，資料を提供する。

- ii) e-ラーニング，電子出版，講習会等の行事とのコラボレーションといった，新たな形態での新規刊行物の可能性を議論した。動画集や電子出版は，需要があるものと見込まれる。今後，どのような形態での発行が可能か，さらに調査する。

5・3・1 出版事業

JSMEテキストシリーズ出版分科会：主査 宇高義郎 他36名，開催4回

1. 2000年6月設置
2. 以下，新刊2タイトルを発行した。（ ）内は発行日
 - ①「演習 機械工学のための数学」（2013年8月1日）②「機械工学のための力学」（2014年1月15日）
3. 来年度は「演習 機械工学のための数学」，「演習 機械工学のための力学」，「加工学II（塑性加工）」，「機械要素設計」の発行を予定している。

機械技術者のためのエネルギー工学出版分科会：主査 吉田英生 他9名，開催0回

1. 2002年4月設置
2. 2011年3月11日に執筆者会議を開催，1年後の発行を目指しメール審議を重ねた。
3. 各章最終原稿の確認に時間を要し，索引にとりかかっている。2014年度夏の発行を目指す。

5・3・2 その他の出版物（委託出版など）

機械工学最前線委託出版分科会：主査 井門康司 他5名，開催0回，出版社：共立出版（株）

1. 2004年4月設置，2007年8月23日に共立出版社にて出版分科会を開催。
2. 「運動と振動の制御の最前線」および「CFD最前線」を2007年4月に発行。販売部数700部。
3. 「マイクロバブル最前線」を2009年2月に発行。
4. 「非破壊検査工学最前線」が2009年7月に発行。
5. 「安全工学最前線」については，2011年1月に発行。
6. 「流体工学最前線」が2011年9月に発行。
7. 「バイオメカニクス最前線」は2013年2月に発行。

以下8～10は進展がなく，出版社と協議のうえ出版中止を決定。今期をもって本分科会を解散とする。

8. 「柔らかロボットへの挑戦」
9. 「自動車工学最前線」
10. 「MEMSとNEMSの最前線」

知って納得！メカランド委託出版分科会：主査 森下信，開催0回，出版社：（株）朝倉書店

1. 2010年9月設置。
2. 2011年5月9日第一次原稿完成。2012年初頭第二次原稿

完成。

3. 一度組版を終えたものの、一部現行の図版に著作権（転載許諾）の問題が発生したため、原稿を差し替え、発行作業が遅延している。

4. 2014年1月：再度組版中、2014年2月：出版社内校正、2014年3月：執筆者校正以降、再校社内校正、再校著者校正を経て、刊行予定を2014年秋口（9月上旬）と変更。

(a) 新刊

書籍名	判型・本文ページ	発行年月
テキストシリーズ 機械工学のための数学	A4判 本文248頁	2013年8月
東日本大震災合同調査報告 機械編	B5判 本文約450頁	2013年8月
テキストシリーズ 機械工学のための力学	A4判 本文122頁	2014年1月
発電用原子力設備規格 設計・建設規格(2013年追補) II編高速炉規格	A4判 本文約370頁	〃
核融合設備規格 超伝導マグネット構造規格(2013年版)	A4判 本文約430頁	〃

(b) 重版

書籍名	刷数	印刷部数	発行年月
伝熱工学資料 改訂第5版	2刷	1000部	2013年 3月
ロボティクス	3刷	2000部	〃
疲労強度の設計資料 I	9刷	40部	2013年 4月
テキストシリーズ 演習 材料力学	2刷	2000部	〃
1999蒸気表	3刷	300部	2013年5月
再処理設備規格 溶接規格(2012年版)	2刷	30部	〃
再処理設備規格 維持規格(2012年版)	2刷	30部	〃
再処理設備規格 設計規格(2012年版)	2刷	30部	〃
テキストシリーズ 流体力学	10刷	5000部	2013年6月
テキストシリーズ 機械材料学	7刷	5000部	2013年7月
発電用火力設備規格 火力設備配管減肉管理技術規格2009年版	3刷	100部	2013年8月
テキストシリーズ 材料力学	7刷	5000部	2013年9月
テキストシリーズ 演習 伝熱工学	4刷	2000部	〃
発電用原子力設備規格 2012年版材料規格	2刷	100部	2013年11月

(c) 委託出版(新刊)

書籍名	判型・本文ページ	出版社	発行年月
なし			

6. 部門事業に係る事業

6・1 部門協議会(部門・研究会・分科会・専門会議)

部門協議会：議長 伊藤宏幸(企画理事)他28名，開催3回
今期，審議・協議を行った主な事項は以下の通りである。

- 1) 部門活動評価の見直しについて各部門から意見徴収を行い，次回の部門評価制度の在り方について問題点を討議した。
- 2) 本会の財政状況について情報を共有し，財政健全化に向けて意見交換を行った。
- 3) スポーツ・アンド・ヒューマン・ダイナミクス専門会議の部門化申請について，各部門から新部門設立に関する意見を取りまとめ，意見書を支部・部門活性化委員会に提出した。
- 4) 部門運営要綱「4. 集会行事企画手続き」において，講習会の教材作成の在り方の見直し，及び消費税値上げに関連した参加費基準値引き上げの改定案が報告された。
- 5) 研究発表講演会における著作権規定が制定されたことにより，運用システムが整い次第，各講演会での運用開始依頼があった。
- 6) Web会議システムの導入について，各部門へアンケート調査を実施した。
- 7) マイクロ・ナノ工学部門より，一般表彰規定の設置が報告された。

各部門で実施された集会事業は前ページ一覧表に記載のとおりであるが，集会事業以外で各部門の活動特記事項は次のとおりである。

1. 計算力学部門：部門長 山本 誠，他32名，運営委員会開催2回(総務委員会開催5回)

- 1) 総務委員会，広報委員会，事業企画委員会，年次大会担当委員会(2013年度および2014年度)，計算力学講演会担当委員会(2013年度および2014年度)，表彰担当委員会，電子材料・電子・情報機器関連技術委員会，最適設計技術委員会，計算力学教育技術委員会，設計工学関連技術委員会，社会・環境・防災シミュレーション技術委員会，英文誌編修委員会，学術誌再編担当委員会の計19の委員会を設置し部門運営にあたった。
- 2) 第26回計算力学講演会(11月2日(土)～4日(月))，於・佐賀大学大学院工学系研究科(佐賀市)，実行委員長：萩原世也(佐賀大学)，幹事：只野裕一(佐賀大学)，講演数402件，参加者547名)を開催した。
- 3) 部門賞として，功績賞2名，業績賞3名の受賞者を選定し，第26回計算力学講演会において表彰した。
- 4) 各技術委員会，研究会(計7)企画の講演会，講習会を複数回開催した。特に，計算力学技術者認定試験対策講習会は，固体力学分野4回(関東，東海，関西，九州の各地区)，熱流体力学分野2回(関東，関西の各地区)を実施した。
- 5) ニュースレター50号，51号を発行した。
- 6) フェロー候補者について検討し，3名の推薦を行なった。
- 7) 学会賞(論文および奨励)候補者について検討し，研究奨励賞1名の推薦を行なった。
- 8) 部門英文誌 Journal of Computational Science and TechnologyのVol.7 No.2, No.3を発行した。
- 9) 学術誌再編に関する検討を行うとともに，Mechanical Engineering Review誌創刊号に執筆者を推薦した。

(所属研究会)

- A-TS 01-09 逆問題解析手法研究会
主査：井上裕嗣 開催：2回
- A-TS 01-13 九州地区計算力学研究会
主査：萩原世也 開催：3回
- A-TS 01-15 マルチスケール計算固体力学研究会
主査：志澤一之 開催：11回
- A-TS 01-19 電磁流体解析関連技術研究会
主査：金山 寛 開催：2回
- A-TS 01-23 設計情報学研究会
主査：大林 茂 開催：3回

2. バイオエンジニアリング部門：部門長 山根隆志，他32名，

運営委員会開催4回

- 1) 総務，企画，広報，国際，ジャーナル編集，各講演会組織の各委員会を設置し，部門運営にあたった。
- 2) 英文ジャーナル“Journal of Biomechanical Science and Engineering”Vol. 8, No.1-4を発行し，28件の論文を掲載した。
- 3) 英文ジャーナルのJBSE Papers of the Yearを2件，および，Graphics of the Yearを3件について，審査により決定した。
- 4) ニュースレター第42号を発行した。
- 5) 2013年度年次大会に関して，部門単独でオーガナイズドセッション2件，部門合同で，基調講演3件(バイオ，マイクロ，機力，流工，材力，動力)，市民フォーラム1件(バイオ，ロボメカ，機力，機素潤滑，技術と社会)，ワークショップ2件(バイオ，医工学)，オーガナイズドセッション15件(バイオ，医工学，計力，流工，材力，マイクロ，機力，スポーツ，熱工，ロボメカ，動力，機械材料，基礎潤滑，技術と社会，情報知能)を企画，実施した。
- 6) 新学術誌の創刊に関して，カテゴリマネージャー，エディタ，および，アソシエイトエディタを選任した。
- 7) 日・韓機械学会バイオエンジニアリング部門協定(Memorandum of understanding)を締結し，韓国に講師を派遣すると共に，国内バイオエンジニアリング講演会で日韓合同セッションを設けた。
- 8) 部門賞として，功績賞1名，業績賞1名，瀬口賞2名，フェロー賞3名の受賞者を選考し，第26回バイオエンジニアリング講演会にて表彰した。
- 9) 8つの部門研究会を通じて，新規テーマの開拓，調査・研究活動を実施した。
- 10) 医工学テクノロジー推進会議，マイクロ・ナノ工学専門会議，スポーツアンドヒューマンダイナミクス専門会議，法工学専門会議に運営委員を派遣し，それぞれの活動に積極的に協力した。
- 11) 以下の講演会およびバイオサロンを主催した。
 - ・第41回バイオサロン(2013.3.29, 東京)
参加者：25名
 - ・第24回バイオフロンティア講演会(2013.11.1-2, 京都)
講演件数：100件，参加者数：207名
 - ・バイオフロンティア・シンポジウム2013(2013.11.1, 京都)
特別講演：2件，参加者数：120名
 - ・第42回バイオサロン(2014.1.10, 仙台)
参加者数：14名
 - ・第26回バイオエンジニアリング講演会(2014.1.11-12, 仙台)
講演件数：292件，参加者数：459名

(所属研究会)

- A-TS 02-04 制御と情報一生体への応用研究会
主査：早瀬敏幸 開催：3回
- A-TS 02-05 計測と力学一生体への応用一研究会
主査：大橋俊朗 開催：4回
- A-TS 02-07 生体機能の解明とその応用に関する研究会
主査：松本健郎 開催：2回
- A-TS 02-08 生体システム技術研究会
主査：高松 洋 開催：2回
- A-TS 02-09 生物機械システム研究会
主査：和田成生 開催：3回
- A-TS 02-13 傷害バイオメカニクス研究会
主査：一杉正仁 開催：2回
- A-TS 02-14 スキンメカニクスの計測と評価
主査：佐久間淳 開催：3回

3. 材料力学部門：部門長 川上 崇，他32名，運営委員会開催3回

- 1) 運営委員会の下に運営委員会幹事会，総務委員会，広報委員会，年次大会担当委員会，M&Mカンファレンス担当委員会，M&M若手シンポジウム担当委員会，学会・部門賞担当委員会，国際交流委員会，講習会担当委員会，年鑑・出

版担当委員会を設置し、部門運営にあたった。

- 2) 2012年度定時社員総会における特別企画「部門大集合：部門から社会への発信—全部門が語る—」において、部門代表者1名が講演を行った。
- 3) 2013年度定時社員総会における特別企画「企業大集合：部門と産業—部門の中の企業活動—」において講演を行う部門代表者1名を選出した。
- 4) 2013年度年次大会において、基調講演2件（他部門と共同）、部門横断オーガナイズドセッション14件及び部門同好会を企画実施した。また、特別企画「日本機械学会の果たすべき役割：部門大集合ハイライト」において、部門代表者1名が講演を行った。
- 5) 2014年度年次大会について、特別企画及びオーガナイズドセッションの募集を行い、熱工学部門と合同で市民フォーラム「燃料電池自動車を支える高圧技術」を提案した。
- 6) M&M2013材料力学カンファレンスを2013年10月11～14日に岐阜大学柳戸キャンパスにて開催した。特別企画4件、オーガナイズドセッション21件、総講演件数437件（ポスターセッション28件、基調講演2件を含む）、機器展示8件、見学会（イイダ産業株式会社、岐阜大学金型創成技術研究センター）及び懇親会を企画実施し、参加登録者数は617名であった。特別企画の内訳は以下の通りである。
 - ・ワークショップ「水素社会を支える材料強度学—いま何が求められているか—」
 - ・特別講演「航空機構造の安全をどう守るか～複合材適用と鳥衝突の例～」
 - ・「産学連携フォーラム（日本技術士会との合同セッション、市民フォーラムとして一般公開）」
 - ・「新たな成長戦略の実現に向けたアクションプラン～学会の知恵を社会に還元する仕組み作り～」
- 7) M&M2014材料力学カンファレンスを2014年7月18～21日に福島大学にて開催することを決定し、開催準備を開始した。
- 8) M&M2015材料力学カンファレンスを2015年11月19～22日に慶應義塾大学矢上キャンパスにて開催することを予定した。
- 9) ATEM2015を2015年10月4～8日にロワジーホテル豊橋にて開催することを決定した。
- 10) APCFS/SIF2014が2014年12月9～12日にシドニーで開催される件について、過去8回の日中韓でのAPCFSの開催実績を踏まえ、共催とする方向で検討を行った。
- 11) 部門協議会直属分科会1件の活動に、協力部門として参画した。
 - ・P-SCC II-4 配管減肉管理法の改良・実用化に向けた調査研究分科会（申請部門：動力エネルギーシステム部門）
- 12) 部門所属研究分科会3件の活動を行った。
 - ・P-SCD373 荷重・耐力係数法による信頼性評価の実用化に関する研究分科会（2013年3月終了）
 - ・P-SCD379 形状記憶材料による構造の多機能化とその設計および応用に関する研究分科会（継続）
 - ・P-SCD381 高圧水素機器の設計合理化に関する研究分科会（2013年4月設置）また、活動の活性化を図るため、運営費を50%増額することを決定し、直ちに実施した。
- 13) 部門所属研究会4件の活動を行った。
 - ・A-TS 03-14 実験力学先端技術研究会（継続）
 - ・A-TS 03-24 弾性数理解析の発展と普及、利用に関する調査研究会（継続）
 - ・A-TS 03-26 マルチフィジックスの実験/計算技術の高度化に関する研究会（継続）
 - ・A-TS 03-27 学会基準「機械構造物の信頼性に関する一般原則」開発研究会（2013年4月設置）また、活動の活性化を図るため、運営費を50%増額することを決定し、直ちに実施した。
- 14) 講習会3件を開催した。
 - ・No.13-37 よく分かる材料力学—設計・生産技術者のための基礎講座第17回—、2013年7月4日、日本機械学会会議室
 - ・No.13-38 よく分かる破壊力学・弾性力学—設計・生産技術者のための基礎講座第18回—、2013年7月5日、日本機械学会会議室

- ・No.13-50 有限要素法による構造強度設計入門～CAEのV&Vと1DCABを学ぶ、2013年7月8日、日本機械学会会議室
 - また、2014年度に4件の講習会を開催することを計画した。
- 15) 英文誌 Journal of Solid Mechanics and Materials EngineeringのVol.7, No.1～6を刊行した。また、2014年1月から順次刊行される日本機械学会学術誌について、部門としての対応を検討した。
 - 16) 部門ニュースレターNo.37を2013年7月に発行した。
 - 17) 2013年度の日本機械学会賞（論文）5件、日本機械学会賞（技術）1件、日本機械学会賞（技術功績）0件、日本機械学会賞奨励賞（研究）4件、日本機械学会賞奨励賞（技術）1件、日本機械学会賞（教育）0件の候補を推薦した。
 - 18) 2012年度の部門賞として、功績賞3名、業績賞2名、貢献賞1名を選出し、M&M2013材料力学カンファレンスにて表彰した。
 - 19) 部門一般表彰の優秀講演表彰として、M&M2013材料力学カンファレンスの一般講演における講演者から7名を選出し、贈賞した。
 - 20) 若手優秀講演フェロー賞として、M&M2013材料力学カンファレンスのポスターセッションにおける講演者から1名を選出し、贈賞した。
 - 21) 平成26年度文部科学大臣表彰若手科学者賞の候補者1名を推薦した。
 - 22) 2014年度（第92期）副部門長の選挙を実施し、決定した。また、決定後に次期副部門長選挙要領の改正を検討した。
 - 23) 2014年度（第92期）の代表会員候補者6名を推薦し、代議員30名を選出した。
 - 24) 2013年度のフェロー候補者3名を推薦した。
 - 25) 日本学術会議主催の「第57回材料工学連合講演会」の実行委員2名及び「安全工学シンポジウム2015」の実行委員1名を選出した。
 - 26) 部門JSME技術ロードマップ小委員会にて将来構想を検討し、出口戦略の一環としてM&M2013材料力学カンファレンスの特別企画「新たな成長戦略の実現に向けたアクションプラン～学会の知恵を社会に還元する仕組み作り～」を企画し、幅広く議論を行った。
 - 27) インフォメーションメールを通じて部門登録者からの新規活動提案を募集し、5件の提案を得た。検討の結果、部門所属研究分科会・研究会について運営費増額実施と1件の新規設置検討、および提案関連事項の検討（下記27）項）に結びつけた。
 - 28) 国際会議について、部門の共催とする際の要件等を明確化するために、部門内規の制定を検討した。
 - 29) 2014年度予算策定に際し、経費節減を目的として、部門運営委員会の資料の電子化（ペーパーレス化）を検討した。

【所属研究会】

- A-TS 03-14 実験力学先端技術研究会
主査：鈴木新一 開催：5回
- A-TS 03-24 弾性数理解析の発展と普及、利用に関する調査研究会
主査：河村隆介 開催：1回
- A-TS 03-26 マルチフィジックスの実験/計算技術の高度化に関する研究会
主査：林 眞琴 開催：1回
- A-TS 03-27 学会基準「機械構造物の信頼性に関する一般原則」開発研究会
主査：酒井信介 開催：3回

4. 機械材料・材料加工部門：部門長 井原郁夫、他32名、運営委員会開催6回

- 1) ニュースレターNo.45, No.46を発行した。
- 2) 2013年度年次大会（岡山大学）における部門企画行事（基調講演2件、ワークショップ2件、先端技術フォーラム1件、市民フォーラム1件、オーガナイズドセッション14件）を実施した。
- 3) 2014年度年次大会（東京電機大学）における部門行事（基調講演1件、ワークショップ3件、先端技術フォーラム3件、オーガナイズドセッション16件）を企画した。
- 4) 第21回機械材料・材料加工技術講演会M&P2013（首都大学東京）を充実した内容かつこれまでの最大規模で実施し、成功裏に終えた。

- 5) 部門国際会議ICM&P2014 (2014年6月9日~13日, 米国デトロイト市, Cobo Center) について, 現地スタッフと企画・準備を進め, 講演申込ならびに講演論文の受付を終了した。
- 6) 第22回機械材料・材料加工技術講演会M&P2015について, 開催候補地 (近畿大学) を決定した。
- 7) 機械の日・機械週刊関連事業 (工作・実験フェア, 2013年8月24日, 大阪工業大学) を実施した。
- 8) 部門賞および部門一般表彰の選定と表彰, フェロー賞受賞者の選定を行った。
- 9) 分科会・研究会について継続設置するとともに, 「次世代3Dプリンティング研究会 (2014.1.18現在の会員数71名)」を新設した。
- 10) 新学術誌創刊の準備 (カテゴリーA: 材料力学, 機械材料, 材料加工) を進めた。
- 11) 日本機械学会誌 (2014年後半発行) の特集テーマ「知的材料・構造システムとその関連分野における現状と新展開」を企画した。さらに, 日本機械学会誌 (2015年前半発行) の特集テーマ「3Dプリンタの新潮流」を企画した。
- 12) JSME Mechanical Engineering Journal (2015年前半発行) の特集号「Recent Advances in Materials and Processing」を企画した。
- 13) 講習会「もう一度学ぶ機械材料学」(2013年10月13日~14日) を企画, 実施した。また, 来季の同講習会を企画した (2014年10月2日~3日)。
- 14) 「M&Pサロン」を実施した (第9回2013.5.31, 第10回2013.7.26, 第11回2013.9.27, 第12回2013.11.29, 第13回2014.1.31)。さらに, 来期前半開催分についても確定した。
- 15) 年次大会, 部門技術講演会, 部門国際会議等における各種企画の充実を図り, 新規の分野取込み・特別行事企画, 新規企画の継続・発展のための基礎を築いた。
- 16) 部門国際シンポジウムASMP2015について, 開催候補地を決定し, 委員会の立上げ等, 開催準備を開始した。
- 17) 「3Dプリンタに関するRD分科会 (仮称)」の設置に向けた3部門での検討を開始した。

[所属研究会]

- A-TS 04-09 P.D. (Particle Deposition) プロセス研究会
主査: 福本昌宏 開催: 1回
- A-TS 04-10 アクティブマテリアルシステム研究会
主査: 浅沼 博 開催: 1回
- A-TS 04-11 医療材料のコーティング材における界面強度評価に関する研究会
主査: 新家光雄 開催: 2回
- A-TS 04-12 次世代3Dプリンティング研究会
主査: 京極秀樹 開催: 1回

5. 流体工学部門: 部門長 福西 祐, 他32名, 運営委員会開催2回

- 1) 委員長・幹事会 (6回) を開催した。また, 総務, 広報, 技術委員会 (講演会, 講習会, 学術表彰, 編集・企画WG) の各委員会を設置し, 部門運営に当たった。
- 2) 第91期流体工学部門講演会 (11月, 九州大学) を開催した。
- 3) 第19回流れのふしぎ展 (8月, 東京: 日本科学未来館) を開催した。
- 4) 第12回流れの夢コンテスト (11月, 九州大学) を開催した。
- 5) 流れのふしぎ科学教室2013 (9月, 岡山大学) を開催した。
- 6) ニューズレター2013年4月号, 2013年10月号, 2014年1月号を発行した。
- 7) 以下の研究会・分科会を新設した。
「P-SCD382 せん断流の多様な機能の探究と先端科学技術への応用に関する研究分科会」(主査: 福西 祐 (東北大学))
「A-TS 05-24 プラズマアクチュエータ研究会」(主査: 瀬川武彦 (産業技術総合研究所))
- 8) 講習会を部門単独で5回, 計算力学部門・熱工学部門と合同で2回, 計7回開催した。

[所属研究会]

- A-TS 05-02 流力騒音研究会
主査: 梶昭次郎 開催: 1回
- A-TS 05-09 北海道地区流体工学研究会
主査: 松村昌典 開催: 3回
- A-TS 05-13 九州地区流体工学研究会
主査: 山田英巳 開催: 1回
- A-TS 05-19 格子ボルツマン法の基礎と応用に関する研究会
主査: 稲室隆二 開催: 2回
- A-TS 05-20 北陸地区流体工学研究会
主査: 木綿隆弘 開催: 2回
- A-TS 05-22 複雑流体研究会
主査: 蝶野成臣 開催: 1回
- A-TS 05-23 噴流, 後流, 及びはく離流れ研究会
主査: 内山知実 開催: 1回
- A-TS 05-24 プラズマアクチュエータ研究会
主査: 瀬川武彦 開催: 0回

6. 熱工学部門: 部門長 小林秀昭, 他34名, 運営委員会開催3回 (内代行運営委員会1回)

- 1) 総務委員会 (5回) ほか, 部門所属委員会を開いて, 部門運営の経常業務を執行した。
- 2) ニュースレター69号, 70号, 71号を発行した。
- 3) 2013年9月8日 (日) ~11日 (水) の日本機械学会2013年度年次大会において, 一般セッション (熱工学部門) 1件, 他部門とのジョイントセッション7件を実施した。
- 4) 2013年9月19日 (木), 20日 (金) に部門講習会として, 『伝熱工学資料 (改定第5版)』の内容を教材にした熱設計の基礎と応用 No.13-58を開催した。
- 5) 2013年10月17日 (木) ~18日 (金) に部門特別講演会として, 熱工学コンファレンス2013・プレコンファレンスワークショップ 震災復興に向けた熱工学の貢献/これからの人材育成 - 企業・公的機関・大学の立場から - No.13-115を開催した。
- 6) 2013年10月19日 (土) ~20日 (日) に部門講演会として, 「熱工学コンファレンス2013」No.13-55を開催した。
- 7) 計算力学技術者2級 (熱流体力学分野の解析技術者) 認定試験対策講習会 (流体工学部門が幹事部門で, 流体工学部門, 熱工学部門, 計算力学部門との合同企画) を, 以下の日程で全国2会場で開催した。
2013年10月5日 (土)・6日 (日) No.13-89 (東京)
2013年11月30日 (土)・12月1日 (日) No.13-90 (大阪)

[所属研究会]

- A-TS 06-15 熱・エネルギーシステムのエクセルギー評価研究会
主査: 幸田栄一 開催: 0回
- A-TS 06-18 相変化研究会
主査: 小泉安郎 開催: 5回
- A-TS 06-19 熱工学ギャラリー研究会
主査: 高松 洋 開催: 0回

7. エンジンシステム部門: 部門長 後藤新一, 他17名, 運営委員会開催2回

- 1) 総務, 広報, 技術, 学会表彰・年鑑, 部門賞, 講習会企画, 基礎教育講習会, 内燃機関シンポジウム, 年次大会企画, スターリングサイクル, エンジンリサーチ誌編集, 国際企画, ロードマップの各委員会を設置し, 部門運営に当たった。
- 2) ニュースレター50号 (Web掲載) を発行した。
- 3) 技術委員会により11の研究会を組織し, 研究・調査活動を展開した。
- 4) 「第24回内燃機関シンポジウム」(13/11/26-11/28) を開催した (幹事学会: 自動車技術会)。
- 5) No.13-47講演会「第16回スターリングサイクルシンポジウム」(13/11/30) を開催した。
- 6) No.13-116基礎教育講習会「エンジン技術の基礎と応用 (その26)」(13/11/22) を開催した。
- 7) No.13-145講習会「高効率ガソリンエンジン・ガスエンジンの点火制御技術」(14/1/10) を開催した。
- 8) 2013年度年次大会に関し, 一般セッションに加え, 基調講演1件, 先端技術フォーラム1件, ワークショップ1件を企画して実施した。

- 9) International Journal of Engine Research誌3冊 (Vol.14 Issue2(April)~Vol.14 Issue4(August))を發行した。
- 10) 2012年度(第90期)の部門賞受賞者, ベストプレゼンテーション賞受賞者, 若手優秀講演フェロー賞受賞者の贈賞式を, 2013年度年次大会(9月9日@岡山大学)にて行った。
- 11) 2013年度(第91期)の部門賞, ベストプレゼンテーション賞, 若手優秀講演フェロー賞候補者の選考を行った。

〔所属研究会〕

- A-TS 07-21 エンジン先進技術の基礎と応用研究会
主査: 千田二郎 開催: 5回
- A-TS 07-32 西日本エンジンシステム研究会
主査: 西田恵哉 開催: 3回
- A-TS 07-43 九州先進エンジンテクノロジー研究会
主査: 植木弘信 開催: 1回
- A-TS 07-47 先進内燃機関セミナー研究会
主査: 小酒英範 開催: 3回
- A-TS 07-48 北信越エンジンシステム研究会
主査: 榎本啓士 開催: 3回
- A-TS 07-49 スターリングサイクル機器を題材にした実践的技術者教育に関する研究会
主査: 竹内 誠 開催: 3回
- A-TS 07-50 北海道新エンジンシステム研究会
主査: 田部 豊 開催: 2回
- A-TS 07-51 強制力の弱いスターリングサイクル機器の特性理解とその応用に関する研究会
主査: 原村嘉彦 開催: 0回
- A-TS 07-52 自着火制御技術の高度化研究会
主査: 中野道王 開催: 3回
- A-TS 07-53 エネルギー多様化時代のエンジン技術研究会
主査: 調 尚孝 開催: 4回
- A-TS 07-54 Model based combustion control 研究会
主査: 神本武征 開催: 5回
- A-TS 07-55 スターリングサイクルシステムによる未利用エネルギー活用技術に関する研究会
主査: 平田宏一 開催: 1回

8. 動力エネルギーシステム部門: 部門長 阿部 豊, 他30名, 運営委員会開催2回

- 総務, 広報, 部門企画, 学会企画, シンポジウム企画, 国際企画, 研究企画, 出版企画, 学会賞, 部門賞の各委員会を設置し, 部門運営にあたった。
- 年次大会にて基調講演1件, 先端技術フォーラム2件, オーガナイズドセッション4件, 一般セッション1件, ジョイントセッション4件の企画, 部門同好会を行った。
- ニュースレター第46号, 第47号を発行した。部門英文ジャーナルであるJournal of Power and Energy Systemsを発行した。
- 部門賞(功績賞3名, 社会業績賞1名), 部門一般表彰(貢献表彰3件, 優秀講演表彰8名), 若手優秀講演フェロー賞3名を贈呈した。
- セミナー&サロン「エネルギー分野における社会イノベーション—グローバル社会における3E実現への貢献—」(参加者85名)を日立製作所 秋葉原ダイビルにて開催した。
- 第18回動力エネルギーシンポジウム(会場: 千葉大学, 講演数166件, 参加者283名)を開催した。日本機械学会論文集B編にノート特集号を企画した。
- 見学会「九州地方における再生可能エネルギー技術—メガソーラー・地熱・バイオマス・風力の各発電所およびバイオマス水素製造所の視察—(見学先: メガソーラー発電所/バイオマス水素製造/バイオマス発電所/地熱発電所/風力発電所, 参加者28名)を実施した。
- 見学会付講習会「コージェネレーションとヒートポンプを用いた省エネ最前線—最新鋭の省エネ・キャンパスの見学」(会場: 東京電機大学・三菱重工株式会社, 参加者21名)を実施した。
- 第21回原子力工学国際会議(ICONE21)(会場: 中華人民共和国四川省成都市, 論文数1001件(内査読を経た発表779件))を開催した。

- 10) 特定事業として「ジュニア会友向け親子見学会 ~ 日本エネルギー産業の発展, 現在, そして未来へ ~ (見学先: 日立シビックセンター科学館, 日立製作所 日立事業所, 日立製作所 日立研究所, 参加者37名)」を実施した。また, 自由研究コンクールを実施し, 最優秀, 特別, 優秀表彰を行った。

- 11) 下記の分科会, 研究会を実施した。
- 「配管減肉管理法の改良・実用化に向けた調査研究分科会(主査, 稲田文夫, 電中研)」
 - 「原子力の安全規制の最適化に関する研究会(主査, 岡本孝司, 東大)」
 - 「低炭素社会をめざすエネルギーシステムデザイン研究会(主査, 中田俊彦, 東北大)」
 - 「湿り蒸気流量計測研究会(主査, 寺尾吉哉, 産総研)」
- 12) 学会本部が設置した東日本大震災調査・提言分科会「WG5 エネルギーインフラの諸問題」の活動に全面的支援を行った。また, シンポジウム, 年次大会にてエネルギーインフラの諸問題につき最終報告を行った。
- 13) 国際会議ICOPE2013(会場: 武漢, 参加者310名)を中国動力行程会議, 米国機械学会との合同で開催した。
- 14) 東日本大震災調査・提言分科会WG5の提案により, 震災対応臨時委員会(設置期間5年)を設置した。

〔所属研究会〕

- A-TS 08-08 原子力の安全規制の最適化に関する研究会
主査: 岡本孝司 開催: 14回
- A-TS 08-09 低炭素社会をめざすエネルギーシステムデザイン研究会
主査: 中田俊彦 開催: 4回
- A-TS 08-10 湿り蒸気流量計測研究会
主査: 寺尾吉哉 開催: 5回

9. 環境工学部門: 部門長 秋澤 淳, 他31名, 運営委員会開催1回

- 総務委員会(3回開催), 4つの技術委員会, 広報委員会, シンポジウム実行委員会, 国際ワークショップ実行委員会, 表彰委員会, 部門組織・企画委員会, 英文Journal編集委員会を組織し, 部門運営にあたった。
- 部門行事企画
 - 講習会
 - 静粛設計のための防音・防振技術: 6月7日/日本機械学会会議室
 - 流体音の制御・静粛化: 10月30日/日本機械学会会議室
 - 冷凍空調技術に関するシミュレーション技術Ⅲ: 11月26日/日本機械学会会議室
 - 特別講演会
 - 大気圧プラズマによる環境対策に関する特別講演会—健康社会・環境改善のための最先端プラズマ技術—: 5月8日/日本機械学会会議室
 - 見学会
 - 一般財団法人電力中央研究所 横須賀地区: 12月13日/電力中央研究所横須賀地区
 - 下水汚泥燃料化施設見学会 広島市西部水資源再生センター: 12月13日/広島市
 - 長岡市生ごみバイオガス発電センター: 1月31日/長岡市
 - 夏休み親子向けイベント「熱を体験してみよう」: 8月21日/環境エネルギー館
 - 手作り音を楽しもう—環境にやさしい夏休み親子向けイベント: 8月24日/東芝科学館
 - 第23回環境工学総合シンポジウム: 7月10日~12日/東京海洋大学 品川キャンパス
- 共催
 - 第47回空調和・冷凍連合講演会(幹事学会: 日本機械学会): 4月16~18日/東京海洋大学
 - 第26回環境工学連合講演会(日本学術会議主催): 4月18日~19日/日本学術会議
- 部門英文ジャーナル(Journal of Environment and Engineering)に4件の論文を掲載(2013.3.1~2013.8.31)。新学術誌に移行するため編集体制を整備した。
- 部門賞, 一般表彰受賞者の選定と表彰およびフェロー賞

受賞候補者, 学会賞推薦を選定した。

- 5) 部門組織・企画委員会主催により「環境工学サロン」を開催した。
- 6) 国際ワークショップの実行委員会を組織し, 2014年11月開催に向けて準備を進めた。

〔所属研究会〕

- A-TS 09-02 NEE研究会
主査: 近藤 明 開催: 1回
- A-TS 09-03 エネルギー有効利用技術の将来動向研究会
主査: 秋澤 淳 開催: 1回
- A-TS 09-04 「音・振動快適化技術と新しい評価法」研究会
主査: 川島 豪 開催: 2回

10. 機械力学・計測制御部門: 部門長 曄道佳明, 他33名, 運営委員会開催4回

- 1) 部門運営にあたり, 総務, 広報・出版, 表彰, 講習会企画, 国際・交流の常設委員会と計算力学技術者認定専門委員会振動分野WGとの連絡および対策講習会の企画を担当する資格認定委員会を設置した。
- 2) 年次大会企画, トビックス, 会員部会の担当者を決定し, 部門の対応を検討した。
- 3) 計算力学技術者認定試験振動分野のための対策講習会を10月に東京, 11月に名古屋で開催した。
- 4) 部門講演会 Dynamics and Design Conference 2013 (D&D2013) / 第13回「運動と振動の制御」シンポジウム (MoViC13) において, オーディエンス表彰, フェロー賞選考の為の評価シートを改訂した。
- 5) 部門賞および一般表彰の候補者を選出し決定した。
- 6) ニュースレターNo. 52, No. 53を発行した。
- 7) 国際・交流委員会を主として, 韓国機械学会との交流事業の一環であるJKシンポジウムをD&D2013会期中に開催した。
- 8) 若手活性化委員会の企画として, D&D2013におけるv.BASEフォーラムへの参加促進施策を実施し, 産官学の若手研究者, 技術者の交流を深めた。また, 若手教員・研究者と博士学生の交流会を実施した。

〔所属研究会〕

- A-TS 10-02 振動研究会
主査: 辻内伸好 開催: 6回
- A-TS 10-03 非線形振動研究会
主査: 黒田雅治 開催: 0回
- A-TS 10-04 ロータ・ダイナミクス・セミナー研究会
主査: 塩幡宏規 開催: 1回
- A-TS 10-05 F I V研究会
主査: 金子成彦 開催: 1回
- A-TS 10-07 モード解析研究会
主査: 吉村卓也 開催: 1回
- A-TS 10-08 回転体力学研究会
主査: 塩幡宏規 開催: 3回
- A-TS 10-09 運動と振動の制御研究会
主査: 水野 毅 開催: 1回
- A-TS 10-10 振動・音響研究会
主査: 中川紀壽 開催: 4回
- A-TS 10-11 北海道ダイナミクス研究会
主査: 一ノ宮修 開催: 1回
- A-TS 10-12 振動基礎研究会
主査: 丸山真一 開催: 1回
- A-TS 10-13 振動工学データベース研究会
主査: 兼森祐治 開催: 1回
- A-TS 10-15 新しい分野における計測制御問題研究会
主査: 山本圭治郎 開催: 1回
- A-TS 10-16 北陸信越動的解析・設計研究会
主査: 鞍谷文保 開催: 2回
- A-TS 10-18 九州ダイナミクス&コントロール研究会
主査: 劉 孝宏 開催: 1回
- A-TS 10-19 減衰(ダンピング)研究会
主査: 佐伯暢人 開催: 2回
- A-TS 10-20 ヒューマン・ダイナミクス&メジャメント研究会
主査: 宇治橋貞幸 開催: 1回

- A-TS 10-22 東海ダイナミクス・制御研究会
主査: 井上剛志 開催: 1回
- A-TS 10-25 磁気軸受標準化研究会
主査: 藤原浩幸 開催: 3回
- A-TS 10-26 磁気軸受のダイナミクスと制御研究会
主査: 水野 毅 開催: 3回
- A-TS 10-27 シェルの振動と座屈研究会
主査: 太田佳樹 開催: 2回
- A-TS 10-31 音響エネルギー研究会
主査: 中川紀壽 開催: 1回
- A-TS 10-32 東北地区ダイナミクス&コントロール研究会
主査: 田中真美 開催: 0回
- A-TS 10-33 機械工学における力学系理論の応用に関する研究会
主査: 藪野浩司 開催: 1回
- A-TS 10-34 機械工学における先端計測研究会
主査: 中野公彦 開催: 1回
- A-TS 10-38 マルチボディダイナミクス研究会
主査: 今西悦二郎 開催: 2回
- A-TS 10-39 診断・メンテナンス技術に関する研究会
主査: 川合忠雄 開催: 3回
- A-TS 10-40 スマート構造システムの将来技術と実用化に関する研究会
主査: 奥川雅之 開催: 1回
- A-TS 10-41 耐震問題研究会
主査: 藤本 滋 開催: 3回

11. 機素潤滑設計部門: 部門長 大岡昌博, 他31名, 運営委員会開催2回, 委員長会議開催1回

- 1) 総務委員会, 部門賞・学会賞推薦委員会, 広報委員会, 機素要素1技術企画委員会, 機素要素2・トライボロジー技術企画委員会, 機素設計技術企画委員会, アクチュエータシステム技術企画委員会, 技術ロードマップ委員会を設置し, 部門運営にあたった。
- 2) 第5回機素潤滑設計生産国際会議ICMDT2013兼第13回部門講演会を2013年5月22日-25日に, 韓国釜山BEXCO(釜山国際展示場)にて開催した。参加者数280名, 基調講演3件, 口頭発表93件, ポスター講演154件であった。
- 3) 2013年度年次大会(2013年9月8日-11日, 岡山大学)において, 基調講演3件, 先端技術フォーラム3件, オーガナイズドセッション4件, ジョイントセッション9件, 卒業研究コンテスト1件, 市民フォーラム1件などの企画を開催した。
- 4) 運動及び動力伝達機構(Motion and Power Transmission)2013シンポジウム<伝動装置>を2013年11月14日-16日に, 宮日会館(宮崎市)において, 参加者数219名で開催した。基調講演1件, 特別講演1件, オーガナイズドセッション講演68件, パネルディスカッション1件, 技術情報交換会1件などの企画を行った。
- 5) LIFE2013(生活生命支援医療福祉工学系学会連合大会)を幹事部門として2013年9月2日-4日に, 山梨大学にて開催した。参加者数289名, 基調講演1件, 特別講演1件, 口頭発表161件であった。
- 6) 講習会「歯車技術基礎講座」(2013年11月21日-22日, 神奈川), 「触覚技術の基礎と応用一人の触覚理解からニューマンマシンインターフェースやロボットの応用まで」(2013年11月22日, 東京), 「一若手機械設計技術者のために一機械設計のための機構学と, 機構における摩擦の基本的取り扱いと活用事例」(2013年11月25日, 東京), 「フルード(流体)を用いたアクチュエータ技術の最前線」(2013年12月2日, 東京), 「じっくり聴く境界潤滑の基礎と応用一常識と誤解一」(2014年1月31日, 東京)を開催した。
- 7) Techno-Frontier2013モーションエンジニアリング展(2013年7月17-19日, 東京)にアクチュエータシステム関係の展示を10小間出展した。
- 8) 第14回部門講演会の実行委員会を組織し, 2014年4月に長野で開催すべく準備を進めさせた。
- 9) 第6回機素潤滑設計生産国際会議ICMDT2015兼第15回部門講演会の実行委員会を組織し, 2015年4月に開催すべく準備を進めさせた。

- 10) 部門ニュースレターNo.32を発行した (A4, 15ページ, 6/10にHPに掲載)。
- 11) 部門HPの和文ページ, 英文ページの更新を行い, 部門HPの充実を図った。
- 12) 動力伝達用高性能歯車の設計と製造技術に関する調査研究分科会を設置し, 活動を行った。
- 13) ヒューマン・マシン・インターフェイス設計研究会を設置し, 研究会を3回, 開催した。

〔所属研究会〕

- A-TS 11-03 中国四国機素潤滑設計技術研究会
主査: 永村和照 開催: 3回
- A-TS 11-06 ヒューマン・マシン・インターフェイス設計研究会
主査: 綿貫啓一 開催: 4回

12. 設計工学・システム部門: 部門長 加藤 廣, 他32名, 総務委員会開催4回, 運営委員会開催2回

- 1) 総務委員会, 技術委員会, 表彰委員会, 広報委員会, 講演会活性化委員会, 産学連携活性化委員会, 企画活動活性化委員会, 英文ジャーナル部門編修委員会, アドバイザリーボードを継続して設置し, 部門を運営した。
- 2) 以下に示す4つの研究会を設立・継続して設置し, 設計工学の体系化, 拡大深化を試みると共に, その啓発, 普及活動に努めた。
 - ・関西設計工学研究会 (A-TS12-04)
 - ・設計研究会 (A-TS12-05)
 - ・Design理論・方法論研究会 (A-TS12-08)
 - ・最適設計研究会 (A-TS12-10)
- 3) HP上において電子版ニュースレター38号, 39号 (増刊号) および39号を公開するとともに, 日本機械学会誌2013年5月号「部門だより」, 2013年9月号にそれらの主要部分を掲載した。
- 4) インフォメーションメールを積極的に活用し, 部門関連行事の案内を行い, 部門登録者をはじめ関連部門への情報配信サービスの向上に努めた。更に時代の潮流を受け, 部門Twitterと部門Facebookを新たに立ち上げ, 情報配信に努めた。
- 5) 第23回設計工学・システム部門講演会 (No.13-22) を企画, 開催し, 関連行事として読谷高校1年生, 3年生を対象へ特別講義を行った
- 6) 特別シンポジウム「最新設計技術—世界は今—」(No.13-140) を企画, 開催した。
- 7) 日本機械学会論文集2013年11月号 (第79巻第807号) C編に, 特集号: 第22回設計工学・システム部門講演会を企画し, 8編の論文が掲載された。
- 8) 2013年度年次大会で, オーガナイズドセッション3件〔他部門との合同企画を含む〕, 基調講演3件, 先端技術フォーラム1件, ワークショップ1件を実施した。
- 9) 国際会議 Design Engineering Workshop 2013 (No.13-205) を主催した。
- 10) 国際会議 2013 Asian Conference on Design and Digital Engineeringを共催した。
- 11) 他学協会と共催によるDesignシンポジウム2014の企画・運営を行った。
- 12) 以下の6件の講習会を企画, 開催し, 産業界を中心に多くの参加者を集め, 学術知見の産業展開ならびに実用例を通した設計手法の普及に寄与した。
 - ・「1 DCAE概念に基づくものづくり設計教育 (導入・基礎～1 DCAE設計のための4つの力学)」(No.13-75)
 - ・「自動車における3次元設計の現状と課題」(No.13-97)
 - ・「VRを用いた設計の新しい検討手法の紹介」(No.13-113)
 - ・「低コストCAE活用による設計検討手法の紹介」(No.13-126)
 - ・「創造的な解を生み出し, それを実現する『システムズエンジニアリング』と『デザインシンキング』」(No.13-150)
 - ・「1 DCAE概念に基づくものづくり設計教育: 第二弾 (基礎・応用・実習・事例～原理・原則に基づく1 DCAE設計)」(No.13-168)
- 13) 部門賞および部門一般表彰の審査・選定を行い, 部門講

演会・懇親会場にて表彰を行った。

- 14) 5部門合同英文ジャーナルJAMDSMにおいて英文論文を査読, 編修し, 公開した。

〔所属研究会〕

- A-TS 12-04 関西設計工学研究会
主査: 野間口大 開催: 1回
- A-TS 12-05 設計研究会
主査: 大富浩一 開催: 2回
- A-TS 12-08 Design理論・方法論研究会
主査: 村上 存 開催: 0回
- A-TS 12-10 最適設計研究会
主査: 泉井一浩 開催: 2回

13. 生産加工・工作機械部門: 部門長 渋川哲郎, 他32名, 運営委員会開催4回

- 1) 部門運営委員会に所属委員会として技術, 総務, 広報, 第1企画, 第2企画, ならびに第3企画委員会を設置すると共に, 運営委員会4回, 委員長・幹事会3回を開催し, 本部門の産学連携組織としての特徴を活かした部門の運営にあたった。
- 2) 部門の活動指針に基づき, 技術委員会開催をTV会議に移行した。また, 部門会議資料のペーパーレス化による運営経費の削減を行った。
- 3) ニュースレターを2回〔No.44, 45〕発行した。
- 4) 部門の集行事企画情報等, 最新の部門情報をニュースレター, 部門HP, インフォメーションメールにて発信した。
- 5) 国際会議 The 7th International Conference on Leading Edge Manufacturing in 21st Century (LEM21) をホテル松島大観荘にて開催した。発表件数135件, 参加登録者179名であった。なお, 部門一般表彰4件を部門運営委員会, Young Researcher Award 8件をLEM21実行委員会より贈賞した。
- 6) 若手人材を主対象にした国際交流の一環として, 「若手ものづくり技術者・国際交流イニシアティブ」を提案し, 実施に向けた具体的活動に着手した。
- 7) 若手人材へのものづくり活動の啓蒙を目的にした講演会を計画し, 科学研究費補助事業への応募を行った。
- 8) 部門諸活動の広報活動を主たる目的として, 日本工作機械工業会との密接な連絡協力体制を整備した。その一環として, 日本国際工作機械見本市で部門ブースを出展する方向で準備に着手した。
- 9) 講習会3回〔No.13-42, No.13-144, No.13-155〕, 実習つき講習会1回〔No.13-20〕, ものづくり体験セミナー1回〔No.13-78〕, 理工系大学生 (3年次)・大学院生 (修士1年)・高専生 (4年生) 対象セミナー1回〔No.13-119〕, の計6行事を開催した。
- 10) 2014年度年次大会のオーガナイズドセッション (4セッション) を企画した。
- 11) 日本機械学会論文集C編において, 特集号「生産加工・工作機械の規範2012」を発刊した。
- 12) 登録会員および登録特別員のフォローに重点を置き, 様々な賞へ積極的に推薦した。日本機械学会賞 (論文) 4件, 日本機械学会賞 (技術) 1件, 日本機械学会若手優秀講演フェロー賞2件, 工作機械技術振興財団論文賞4件, 油空圧機器技術振興財団論文賞1件, の計12件を推薦した。
- 13) 部門賞各賞について部門賞 (功績賞) 1件, (研究業績賞) 1件, 部門一般表彰 (優秀講演論文表彰) 4件の計6件を贈賞した。

14. 生産システム部門: 部門長 塩谷景一, 他32名, 運営委員会開催4回

- 1) 部門運営
2013年4月18日に開催された定時社員総会・特別企画において, 部門長が「生産システム部門の活動について」を講演した。また, この講演内容の要旨を学会誌9月号に, 「部門のめざすところ」として執筆した。本部門では, この講演内容に基づいて, 現状十分ではない生産システムの学問の体系化を促進すること, および国内産業の底上げを目指す生産システム関連の研究の目指すべき方向を示すことを, 重要な役割と認識して活動を行った。特に, 研究の目指すべき方向を示す活動の一つとして, 部門長を主査と

する「アディティブマニュファクチャリングにおける生産システム工学の研究分科会」を設置した。

また、運営委員会における旅費削減などの支出削減対策も行った。

2) 総務委員会

会員の研究活動に対して、学会賞の推薦を行った。また、掲載論文、年次大会および部門講演会における発表講演に対して、部門賞、部門一般表彰、若手優秀講演フェロー賞の授賞を行った。さらに、杉村延広教授（大阪府立大学）を標準化事業貢献賞に推薦した。また、学会フェローに前部門長の平岡弘之教授（中央大学）を推薦した。

3) 広報委員会・ニュースレター編集

ニュースレターを発行した。今年度から、企業会員数増および部門講演会への参加者増を目的として、非会員の企業を対象として、ニュースレターおよび部門講演会の情報を配布する取り組みを始めた。今年度は91件の企業に対して配布した。また、11件のインフォメーションメールにより、適宜必要な情報の発信を行った。

4) 第一技術企画委員会

2013年9月8-11日に岡山大学にて行われた年次大会においてオーガナイズドセッションを企画、12件の研究発表があった。

5) 第二技術企画委員会

2013年3月12日に、中央大学において生産システム部門講演会を開催、52件の研究発表と2件の特別講演を企画し、95名の参加があった。また、本発表の中から、有用性の高い研究論文を選定し、論文集（和文誌）2014年6月号を企画した。

6) 第三技術企画委員会

スケジューリング国際シンポジウム2013（ISS2013）をスケジューリング学会と2013年7月18-20日に開催した。また、本発表の中から、有用性の高い研究論文を選定し、Journal of Advanced Mechanical Design and Manufacturing Vol. 8, No. 3（2014年6月頃公開予定）を企画した。

また、新たな国際会議の協賛として、ICIM2014、iDECON2014の2件の手続きを行った。

7) 第二事業企画委員会

2013年3月11日に株式会社ツムラ・茨城工場（茨城県稲敷郡）の見学会を実施した。

8) 第三事業企画委員会

2014年1月28日に講習会「今後のものづくりの動向と生産システムの方向性」をオムロン（株）草津事業所（滋賀県草津市）で行った。

9) 英文ジャーナル

5部門（機械潤滑設計部門、設計工学・システム部門、生産加工・工作機械部門、生産システム部門、情報・知能・精密機器部門）合同ジャーナル（Journal of Advanced Mechanical Design and Manufacturing）Vol. 7, No. 1-6を発行した。

10) 工学年鑑執筆

「新生産システム」、および「生産システムの要素技術」と題して、生産システム部門に関係のある年鑑情報を会誌8月号に掲載した。

15. ロボティクス・メカトロニクス部門：部門長 新井史人、他32名、運営委員会開催4回

1) 企画、技術、広報、出版、欧文誌、表彰委員会、ロードマップ、ロボットグランプリ組織運営委員会を構成し、部門運営にあたった。

2) 部門欧文誌 Journal of Robotics and Mechatronics (JRM) を2013年に終了し、2014年から新部門欧文誌 ROBOMECH Journal をSpringer社より創刊した。

3) 講習会「英語力強化合宿 Academic Boot Camp」を2013年3月9日（土）～10日（日）に幕張セミナーハウス（千葉県習志野市）で開催し、11名が参加した。

4) 第18回ロボティクスシンポジウムを2013年3月14日（木）～15日（金）にかみのやま温泉古窯（山形県上山市）で、日本ロボット学会（幹事学会）、計測自動制御学会と共同で開催した。96件の発表があり183名が参加した。

5) 「第16回ロボットグランプリ」を2013年3月24日（土）～25日（日）に科学技術館で主催し、約1,800名が参加した。

6) ロボティクス・メカトロニクス部門講演会（ROBOMECH2013）を2013年5月22日（水）～25日（土）につくば国際会議場で開催した。ポスター講演には1,148件の発表があり、1,749名が参加した。また、5月25日にはロボットのデモ展示、「ロボットの目に注目！-ロボットの目が見ている世界のお話」の市民参加企画を開催した。

7) 2013年年次大会の市民開放行事として、「ロボコンプロデュース2013」を2013年9月8日（日）に岡山大学で開催し、約50名が参加した。他に基調講演「Beyond Human」を行い、市民フォーラム「手足の自由を取り戻そう！支える人と技術」（バイオエンジニアリング部門、機械力学・計測制御部門、機素潤滑設計部門、技術と社会部門と合同）を開催した。さらにオーガナイズドセッション1件（講演数5）、部門一般セッション1件（講演件数23）、部門横断セッション7件（講演数91件）を実施した。また部門同好会を開催し、12名の参加があり世代を超えた交流を図ることができた。

8) 「生活生命支援医療福祉工学系学会連合大会（LIFE2013）」を2013年9月2日（月）～4日（水）に山梨大学で開催した。今年度は機械学会を幹事学会とし、機素潤滑設計部門（幹事部門）、バイオエンジニアリング部門、機械力学・計測制御部門、ロボティクス・メカトロニクス部門の合同で実施した。

9) 九州地区競技会「フューチャードリーム！ロボメカ・デザインコンペ2013」を2013年12月7日（土）にロボスクエア（福岡市）で開催し、約300名が参加した。

10) ロボット・メカトロニクス技術の啓発と発展のため、各地で特別講演会・見学会等を他に15回開催した。

11) 「電通大杯ヒト型レスキューロボットコンテスト2013」に共催した。また「第12回レスキューロボットコンテスト」に共催、「ロボカップジュニアジャパンオープン2013 東京」に後援をし、それぞれ優秀な参加者に部門一般表彰を贈った。

12) ニュースレターNo. 47を発行し、日本機械学会誌にもダイジェスト版を掲載した。また、部門便りを日本機械学会誌に掲載し、部門ホームページの更新を行い英語ページの充実を図った。

13) 部門登録者より熱心に活動を行い貢献した会員2名を、日本機械学会フェロー候補者として学会に推薦した。

14) ROBOMECH2013にて、部門賞として、功績賞1名、学術業績賞1名、技術業績賞2名に対して贈賞した。部門一般表彰として、25周年部門功労表彰3名、ROBOMECH表彰5講演、ベストプレゼンテーション賞5名、部門貢献表彰2名、JRM表彰1件に対して贈賞した。

15) 日本機械学会若手優秀講演フェロー賞候補18名を選定し、ROBOMECH2013において授与式を行った。

16) 日本機械学会賞（論文）23件、同（技術）1件、同（技術功績）1名、日本機械学会奨励賞（研究）4名、同（技術）3名、日本機械学会教育賞2名、日本機械学会優秀製品賞1件を推薦した。

（所属研究会）

A-TS 15-16 メカトロニクス教育研究会

主査：河村 隆 開催：3回

A-TS 15-17 ロボットメカトロニクスによる国際コミュニケーション教育研究会

主査：福田敏男 開催：2回

A-TS 15-18 安心安全ロボット・メカトロニクス研究会

主査：新井健生 開催：2回

A-TS 15-19 バイオロボティクス研究会

主査：橋本 稔 開催：1回

A-TS 15-20 エコメカトロニクス研究会

主査：高橋良彦 開催：20回

A-TS 15-21 防災ロボット研究会

主査：田所 諭 開催：2回

16. 情報・知能・精密機器部門：部門長 鈴木健司、他32名、主査会議開催2回、運営委員会開催2回

1) 総務、学術、事業、広報、編集、表彰委員会に加えて2015年6月に予定している国際会議MIPE2015の準備委員会を設置し、部門運営にあたった。

2) 2012年3月21日～22日に東洋大学白山キャンパスにて情

報・知能・精密機器部門講演会を開催し、情報・知能・精密機器に関する幅広い講演発表が行われ活発な議論を行った。

- 2012年3月21日に部門講演会との併催として、IIP部門設立20周年記念特別講演会「技術立国復活に向けた取組み」を開催し、3名の著名な研究者の基調講演に加え、聴講者参加型討論会を行った。
- 2013年9月2～3日に学生サマースクールを茨城県大洗ホテルで行った。本年度の新たな試みとして日立アプライアンス多賀工場の工場見学、および知能化技術に関する講演会を行った。
- 2013年10月25日に日本機械学会会議室にて学生や若手技術者向けに「機械計測技術の基礎講習会」を開催した。
- 「情報機器のメカニクス制御に関する研究会」、「窒化物半導体デバイスに関わる超精密加工プロセス研究分科会」、「柔軟媒体ハンドリング技術及び応用プロセスに関する調査研究分科会」を設置し、専門的な技術交換が行われた。
- ニュースレター40号をホームページ上にて発行した。
- 日本機械学会賞、フェロー候補、フェロー賞ならびに部門賞の審議・選定を行った。

17. 産業・化学機械と安全部門：部門長 戸枝 毅，他20名，運営委員会開催4回

- 若手への知の伝承を目的に「学生アカデミー」を新たに企画し、佐竹化学機械、東京工業大学、労働安全衛生総合研究所および東京ガスで、セミナーと施設見学を実施した。
- 大企業の知恵を中小企業へ伝達することを目的に「第三者認証の実務」を定期講習会のプログラムとして立ち上げ、機械安全、機能安全、電気安全、北米安全に関する第一人者をボランティア講師に、8月と2月の2回開催した。
- 研究発表講演会を6月、11月の2回開催とし、年次大会を含めて講演者の増加を図り、若手優秀講演フェロー賞1名、部門表彰（論文表彰）2名の贈賞を行った。
- 年次大会では、オーガナイズドセッション2件、一般セッション1件、ワークショップ1件を開催した。
- 業界の第一人者を招き、時流に合わせたトワイライトセミナーを3、4、6、11月の4回開催した。
- 学会誌（年鑑、トピックス）への記事投稿、部門ホームページの更新、ニュースレター28号の発行など、通常業務を遅滞なく実施した。
- 食の安全委員会が企画し、市民フォーラム「食品賞味期限と食の安全」を大田区産業プラザで2月に開催した。
- ロードマップ委員会が20年後の部門管掌技術のあるべき姿を検討し、11月の研究発表講演会で方向性を示した。
- 新学術誌創刊準備委員会、14年度年次大会実行委員会に委員を選出して活動した。

〔所属研究会〕

A-TS 17-04 安全安心社会の為のSafety Service Engineering 研究会—安全知とものづくりの融合
主査：田中 紘一 開催：0回

18. 交通・物流部門：部門長 藤田 聡，他24名，運営委員会開催4回

- 運営委員会、技術委員会（第1～第7+8）、広報委員会、英文ジャーナル編修委員会を設置し部門運営にあたった。
- 「高安全度交通システム専門委員会」、「鉄道技術将来戦略委員会」、「減圧トンネル利用高速鉄道システム検討委員会（土木学会、電気学会と合同）」、「先端シミュレータ研究会」、「昇降機システム安全・安心問題研究会」を設置し研究活動を行った。
- 第22回交通・物流部門大会TRANSLOG2013を主催した。本大会では、一般OS、部門賞受賞記念講演、基調講演、特別企画を実施した。
- 第7回鉄道技術国際シンポジウムSTECH' 15（千葉県、2015年11月10～13日）の実行委員会を組織し、開催準備を始めた。
- 技術講演会「昇降機・遊戯施設等の最近の技術と進歩」を主催した（日本機械学会、2014年1月24日）。
- 基礎セミナー「自動車の運動力学」（自動車技術会との共同企画）を主催した（東京大学本郷キャンパス、2013年

6月1日）。

- 集中初級セミナー「自動車の運動力学」を主催した（日本機械学会、2013年9月12日～13日）。
- 講習会「とことんわかる自動車のモデリングと制御2013」を主催した（日本機械学会、2013年11月25日）。
- 年次大会において、部門企画セッション、基調講演のほか、機械力学・計測制御部門との部門横断セッションを実施した（岡山大学、2013年9月8日～11日）。また、次期年次大会の部門横断セッションを企画した。
- ロボティクス・メカトロニクス部門講演会にて合同セッションを実施した（つくば国際会議場、2013年5月22日～25日）。
- 部門英文ジャーナル「Journal of Mechanical Systems for Transportation and Logistics」の論文募集、審査、発刊を行った。
- 部門ニュースレター45号、46号を発行した。
- 部門賞（功績賞）の表彰を行った（2013年12月11日）。
- フェロー賞、一般表彰（部門大会賞、優秀講演論文）を選考した。

〔所属研究会〕

A-TS 18-04 先端シミュレータ研究会
主査：田川泰敬 開催：2回
A-TS 18-05 昇降機システム安全・安心問題研究会
主査：藤田 聡 開催：2回

19. 宇宙工学部門：部門長 古谷 寛，他33名，運営委員会開催4回

- 総務委員会、広報委員会、第1企画委員会、第2企画委員会、第3企画委員会、第4企画委員会、第5企画委員会、英文ジャーナル編修委員会を設置し、部門を運営した。
- ニュースレターNo. 28を日本機械学会誌2014年2月号に掲載した。
- 部門ホームページにおいて、部門活動のほか、関連情報の公開を行った。
- 「第22回スペース・エンジニアリング・コンファレンス（SEC' 13）」（No. 13-88）部門講演会を企画、2013年12月20日、21日、日本大学理工学部 駿河台校舎にて開催した。発表件数は口頭発表24件、ポスター発表15件。各講演に対して活発な質疑応答が行われた。参加者は68名。
- 2013年度年次大会で、部門単独セッション2件、部門横断セッション（2部門合同）2件、（4部門合同）1件を企画し実施するとともに、特別プログラムとして、基調講演1件とワークショップ1件を企画し実施した。
- 「宇宙工学講座『衛星設計コンテストとその先にあるもの～大賞受賞経験者が語る宇宙への夢～』」（No. 13-138）を、2013年11月10日、宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所にて開催した。参加者は22名。
- 「株式会社三菱電機 先端技術総合研究所 見学会」（No. 13-146）を、2013年11月15日、株式会社三菱電機 先端技術総合研究所にて開催した。参加者は11名。
- 「実践セミナー『宇宙開発におけるシステムズエンジニアリング』」（No. 13-121）を、2013年11月16日、東京工業大学 大岡山キャンパスにて開催した。参加者は91名。
- 「宇宙サロン『宇宙で食べる～宇宙日本食の開発～』」（No. 13-125）を、2013年12月21日、宇宙航空研究開発機構 東京事務所にて開催した。参加者は34名。
- 「宇宙工学講座『模擬人工衛星CanSatの製作体験』」（No. 13-170）を、2014年2月8日、日本大学理工学部船橋キャンパスにて開催した。
- 「宇宙工学探訪～大学での研究最前線をのぞいてみよう～」を7回開催した。
 - ・熊本大学 安全環境科学研究室（No. 13-32）2013年3月19日、熊本大学黒髪南キャンパス。
 - ・東京工業大学 ニューフロンティア基礎講座（No. 13-66）2013年5月17日、東京工業大学 ずさかけ台キャンパス。
 - ・東京都市大学 宇宙システム研究室（No. 13-83）2013年7月20日、東京都市大学 世田谷キャンパス。
 - ・鳥取大学工学部機械工学科 固体力学研究室・制御ロボティクス研究室（No. 13-111）2013年8月4日、鳥取大学 工学部 機械工学科。

- ・「摂南大学 岸本研究室」(No.13-84) 2013年8月10日, 摂南大学 寝屋川キャンパス.
- ・「熊本大学 安全環境科学研究室」(No.13-85) 2013年8月10日, 熊本大学黒髪南キャンパス.
- ・「日本大学理工学部 宮崎研究室」(No.13-171) 2014年2月8日, 日本大学理工学部船橋キャンパス.
- 12) 第21回衛星設計コンテストを実施し, 最終審査会の開催を経て, 本選(2013年11月9日, 相模原市立博物館)で各受賞者の表彰を行った. 日本機械学会宇宙工学部門一般表彰スペースフロンティアの受賞は「太陽炉を用いた火星での製鐵」(群馬工業高等専門学校チーム).
- 13) (一社)日本航空宇宙学会(幹事学会)「第55回 構造強度に関する講演会」(開催日:2013年8月7日~9日)に共催し, 宇宙工学部門から委員を派遣し, 講演会の運営に貢献した.
- 14) (独)宇宙航空研究開発機構(JAXA)種子島宇宙センター主催「第9回種子島ロケットコンテスト」(開催日:2013年3月8日~10日)を後援し, ものづくり活動・地域支援に貢献した.
- 15) NPO法人宇宙工学コンソーシアム主催「The 12th UNISEC WORKSHOP」(開催日:2013年11月30日~12月1日)に後援し, 会議開催に協力した.
- 16) 部門賞3件および部門一般表彰2件の審査・選定を行った.
- 17) 先進軽量構造システム研究会(A-TS 19-01)を部門研究会として継続し, 第5回研究会を, 2013年11月16日, 「実践セミナー『宇宙開発におけるシステムズエンジニアリング』」との合同企画として開催した. また, 第6回研究会を「第22回スペース・エンジニアリング・コンファレンス(SEC'13)」のポスターセッションとして開催した.

〔所属研究会〕

A-TS 19-01 先進軽量構造システム研究会
主査: 田中宏明 開催: 2回

20. 技術と社会部門: 部門長 池森 寛, 他40名, 運営委員会開催2回, 総務委員会開催4回

- 1) 総務委員会の下に設置された3委員会および機械遺産委員会, 研究会, 技術ロードマップ委員会委員, 各担当委員で部門運営にあたった.
- 2) No.13-1 2013年度年次大会(9月8-11日, 岡山大学津島キャンパス)において, OS2件(部門単独), WS2件(部門単独)を企画・開催した. OSの内訳は, S201 技術教育・工学教育25件, S202 機械技術史・工学史8件である. また, 各実行組織の報告事項として後述するが, 「機械遺産委員会によるパネル展示」と「スターリングエンジンの教育から実用まで」の部門単独2件の市民対象行事を企画・開催した. 9月9日に部門同好会を岡山大学生協食堂で開催し, 19名が参加した.
- 3) No.13-67 部門講演会「技術と社会の関連を巡って: 過去から未来を訪ねる」(2013年11月30日, 徳山工業高等専門学校)を日本設計学会との共催により開催した. 「技術教育・工学教育」, 「機械技術史・工学史」, 「設計教育・CAD教育」, 「エネルギー教育・環境教育」の4つのオーガナイズドセッション, 「中国地方の産業技術と技術史」の特別セッションおよび1つの一般セッションを設け, 55件の講演が行われ, 76名が参加した.
- 4) No.13-128 見学会「山口県瀬戸内地方の技術史を訪ねて」(2013年12月1日, 山口県周南市および下松市)を開催し, 17名が参加した.
- 5) 会誌2014年8月号「機械工学年鑑 第22章」について2頁配分を受け, 執筆分担を1.概観(池森寛部門長), 2.技術・工学教育(佐藤智明委員), 3.技術史・工学史と機械遺産認定(大久保英敏機械遺産委員長), 4.技術者倫理(高田一委員), 5.イブニングセミナー(奥村喜勝委員)とした.
- 6) 当部門から本会イノベーションセンターの技術ロードマップ委員会に吉田敬介委員を委員として派遣し, 本会の運営活動に協力した.
- 7) 総務委員会は, 「持続可能なエネルギー利用に関する工学教育研究会」の設置申請を許可し, 部門協議会においてその設置が承認された.

- 8) 広報委員会は, 2013年8月2日付けで部門ニュースレター(NL)No.29を部門ホームページ上に発行した. さらに2014年1月に部門ニュースレター(NL)No.30を発行する予定である.
- 9) 機械遺産委員会は, 2013年度認定機械遺産候補を選定し, 6件が認定された.
- 10) 機械遺産委員会は, 2013年度機械の日における機械遺産認定式典(8月7日, 東京・東京大学山上会館)に出席し, 認定機械遺産6件を解説・報告し, 開催に協力した.
- 11) 機械遺産委員会は, 2013年度年次大会(岡山大学)において, 市民対象行事として9月9日から11日まで大会会場の岡山大学にてパネルの展示を行った.
- 12) 機械遺産委員会は, 機械遺産に関するNHKなど多数の報道機関の取材に協力した.
- 13) 表彰委員会は, 2013年度年次大会(岡山)の期間中, 9月9日に開催した部門同好会において, 大久保英敏氏(玉川大学)に2012年度部門賞の功績賞を贈賞した. また, 2012年度部門一般表彰の優秀講演論文表彰を, 加藤義隆氏(大分大学)と, 渡辺隆介(千葉大学)・安藤潤人(都立産業技術高専)・加藤航甫(都立産業技術高専)・吉田喜一(都立産業技術高専)の各氏ら, 2件に贈賞した.
- 14) 表彰委員会は, 運営委員会の審議結果に基づき, 吉田敬介氏(九州大学)を2013年度組織推薦によるフェロー候補として応募し, 理事会において承認された.
- 15) 表彰委員会は, 2013年度部門賞(功績賞, 業績賞)と部門一般表彰(優秀講演論文表彰)の候補について1月6日に応募受付を締め切り, 審議中である.
- 16) イブニングセミナー実行委員会と旧技術と社会問題研究会が中心となり, イブニングセミナーを3月27日(福島原発事故と放射能の人体へ及ぼす影響), 4月24日(君達にはいいことがあるか? 記録映画「夢と憂鬱-吉野馨治と岩波映画」の上映), 5月29日(ロボットが街を走る一搭乗型移動支援ロボットの公道実証実験-), 6月26日(種から始める無肥料自然栽培), 7月31日(コーヒーを香りから愉しむ-実習付き-), 8月28日(宇宙を学ぶ・宇宙に学ぶ), 9月25日(再生可能エネルギーの本格利用を支える新たな揚水発電プラントの開発-欧州における最近の動向-), 10月30日(新宿の寺は「よろず相談寺子屋」), 11月27日(明治大学平和教育登戸研究所資料館の紹介), 12月18日(低線量放射線被曝のリスクを再考する-「科学と社会」の視点から-)の計11回開催した. 会場としては, 明治大学駿河台キャンパスを使用している. また, 今年度初めての試みとして11月29日に山口県周南市において地方開催(日本とアメリカにおける倫理観の相違)を行なった.
- 17) 旧技術倫理委員会およびエンジニアリングリスク研究会関係者は, 5月18日と11月9日に特別講演会「技術者のための技術者倫理セミナー」を明治大学駿河台キャンパス(リパティタワー)にて開催した. それぞれ15名と14名の参加者があった. 11月9日のセミナーの様子については2014年1月発行予定のニュースレターにて報告する予定である.
- 18) 旧技術倫理委員会およびエンジニアリングリスク研究会関係者は, セミナー企画のため, 4回の打ち合わせを行った.
- 19) ブルネル・スピリット研究会は, 昨年度開催した「ロンドンオリンピックの開会式での演出を読み解く」ことを主題とした特別講演会について, 日本機械学会誌TOPICS記事に『ロンドンオリンピック2012の開会式に登場したブルネルをご存知だろうか?』を報告した. また, 日本機械学会2013年度年次大会(岡山大学)および技術と社会部門講演会において, 委員が関連する研究発表を行った.
- 20) スターリングエンジンを活用した工学教育研究会は, 2013年度年次大会(岡山大学津島キャンパス)において, 9月8日に市民対象行事として「スターリングエンジンの教育から実用まで」を実施した. エンジンシステム部門の「スターリングサイクル機器を題材にした実践的技術者教育に関する研究会」の協力を得て5件の講演を行った. 講演者等スタッフを除き19人の参加者がいた. この講演会は, 公開研究会としての位置付けである. 2014年1月発行予定のニュースレターにて報告する予定である.
- 21) スターリングエンジンを活用した工学教育研究会は, 大

分大学との共催で、大分県の少年少女科学体験スペース0-Laboオーラボを会場に、10月12日に第3回低温度差スターリングエンジン競技会・発表会を開催した。参考出品を含む8組の動作実演があり、オーラボのスタッフを除き44人が出席した。なお写真しかなく名簿に記載が無い参加者がいるため、事務局では43人と判断している。本行事については2014年1月発行予定のニュースレターにて報告する予定である。

- 22) 技術教育・工学教育研究会は、2013年度年次大会において、OS S201技術教育・工学教育を提案し運営した。また、日本産業技術教育学会主催の「第16回エネルギー利用技術作品コンテスト」の第2次審査委員会(2013年10月19日、静岡大学教育学部)に審査員として佐藤智明主査を派遣した。
- 23) 持続可能なエネルギー利用に関する工学教育研究会は、日本大学工学部との共催で、「第6回新☆エネルギーコンテスト」(2013年9月28日、日本大学工学部70号館)を開催し、これに併せて「新☆エネルギーコンテスト」ホームページ(部門ホームページからリンク)の立ち上げ、イベントへの協賛(賞品提供及び審査)企業確保、ポスター集の出版に関する活動を行い、7社1団体の協賛を得た。参加作品は17作品で、当日の参加者は63人であった。次年度も日本大学工学部(郡山)を会場に開催することが決定している。本行事については2014年1月発行予定のニュースレターにて報告する予定である。
- 24) 東海支部総会講演会(2013年3月19日、三重大学)において、技術と社会部門のセッションを設け、13件の講演を行い、ミニシンポ「人間にとって技術とは何か、自然とは何か」を開催した。
- 25) 九州支部総会講演会(2013年3月13日、九州産業大学)にて技術と社会部門のセッションを九州支部と合同で「工学教育および社会貢献」のオーガナイズドセッションと1つの一般セッションを設け、10件の講演を行った。
- 26) 国際会議として、第7回経営と技術移転に関する国際会議(The 7th International Conference on Business and Technology Transfer, ICBTT2014)(2014年12月4-6日、独国マクデブルグ大学)の開催を計画した。
- 27) 学会連携活動として、日本技術史教育学会が2014年8月21、22日にブータン王国で開催する2014年度ブータン国際会議(ICESTE 2014 Bhutan)への協賛依頼を承諾した。本件は企画理事会に上申・承認され、矢部 彰会長と池森寛部門長が同国際会議のアドバイザーに就任した。
- 28) 社会連携活動として、福岡県久留米市が2013年12月30日～2014年1月16日に開催した「からくり儀右衛門展」(2013年度機械遺産「からくり人形・弓曳き童子」を中心とした企画、石橋美術館にて)への後援依頼を承認、さらに企画理事会に上申・承認され、催しには部門長も参加し、日本機械学会をPRすることができた。

〔所属研究会〕

- A-TS 20-14 人機能支援の工学研究会
主査：高田 一 開催：0回
- A-TS 20-15 ブルネル・スピリット研究会
主査：佐藤建吉 開催：1回
- A-TS 20-16 スターリングエンジンを活用した工学教育研究会
主査：加藤義隆 開催：1回
- A-TS 20-17 技術教育・工学教育研究会
主査：佐藤智明 開催：1回
- A-TS 20-18 エンジニアリングリスク研究会
主査：高田 一 開催：4回
- A-TS 20-19 持続可能なエネルギー利用に関する工学教育研究会
主査：佐々木直栄 開催：2回

21. マイクロ・ナノ工学部門：部門長 小寺秀俊，他31名，運営委員会開催4回

- 1) 2013年度年次大会(9月8～11日@岡山大学)において、「壊れない」マイクロシステムのためのナノ力学・ナノ計測」と「マイクロ・ナノ材料創成とそのデバイス応用」の部門主催セッションを含むマイクロ・ナノ関連の11セッションを企画・実施した。基調講演1件とワークショップ2件の特別企画も併せて実施した。

- 2) 第4回マイクロ・ナノ工学シンポジウムにおける優秀研究発表に対し、優秀講演論文表彰3件、若手優秀論文表彰4件、フェロー賞1件を表彰した。
- 3) 第5回マイクロ・ナノ工学シンポジウム(11月5～6日@仙台国際センター)を主催し、招待講演4件、口頭発表94件、ポスター発表54件を行った。参加登録者は200名であった。電気学会主催「第30回センサ・マイクロマシンと応用システム」シンポジウム、ならびに応用物理学会集積化MEMS技術研究会主催の「第5回集積化MEMSシンポジウム」と同時開催により、全体の参加者数は過去最多の703名であった。
- 4) 「マイクロ・ナノ材料創成とそのデバイス応用研究会」、「マイクロ・ナノ医療デバイスに関する研究会」、「マイクロ・ナノ機械の信頼性研究会」を部門所属研究会として新設した。
- 5) 部門経費削減のため、運営会議のペーパーレス化とWEB会議化およびメール審議の実施を開始した。
- 6) 部門ホームページを活用した研究会活動およびシンポジウムの情報発信と部門ニュースレターを発行した。

〔所属研究会〕

- A-TS 22-01 マイクロエネルギー研究会
主査：桑野博喜 開催：1回
- A-TS 22-02 マイクロ・ナノ材料創成とそのデバイス応用研究会
主査：秦 誠一 開催：1回

〔分野横断的・新領域対応型研究活動組織〕

1. 法工学専門会議：委員長 荒木 勉，他21名，運営委員会開催3回
 - 1) 運営委員会を組織し、運営方針を検討した。
 - 2) 法工学専門会議の運営委員会メンバーが中心的な企画者となって「NEDOプロジェクトを核とした人材育成、産学連携等の総合的展開」に応募し採択され、同事業の実施のための委員会でも法工学専門会議の運営委員会メンバーが中心的な役割を担っている。日本機械学会連続講座(NEDO共催)「法と経済で読み解く技術のリスクと安全～社会はあなたの新技術を受け入れるか～」の開催等の活動を行っている。
 - 3) 専門会議所属の新たな研究会として、「事故防止に対する業務上過失処罰の有効性研究会」を立ち上げ、活動を行った。
 - 4) 日本機械学会東日本大震災調査・提言分科会のWG7に、法工学専門会議の運営委員会メンバーの多くが協力し、議論のとりまとめを行った。
 - 5) 2013年度年次大会(岡山大)において、「事故と過失処罰～過失処罰で事故は防げるのか～」に関する市民フォーラム1件、「イノベーションと知的財産」に関するワークショップ1件、ならびにオーガナイズドセッション1件を企画し実施した。
 - 6) 2014年度年次大会(東京電機大)における部門企画行事について運営委員会で審議し、市民フォーラムやワークショップ等を開催すべく、企画の検討を行っている。
 - 7) 出版関係：「機械工学年鑑 第23章」の執筆分担を行った。
 - 8) 出版関係：「法工学入門」の出版の作業を進めている。

〔所属研究会〕

- A-TS F01-04 知的財産法工学研究会
主査：隅藏康一 開催：1回

2. スポーツ・アンド・ヒューマン・ダイナミクス専門会議：委員長 伊藤慎一郎，他23名，運営委員会開催4回

- 1) 2013年9月29日(日)に日本大学文理学部総合体育館屋内プールにおいて、機械の日・機械週間の関連企画として、「親子で学ぼう！科学の目でみる着衣泳」を開催した。6名の受講者があった。
- 2) 日本機械学会2013年度年次大会中(2013年9月8日～11日、岡山大学津島キャンパス)の2013年9月9日(月)に、機械力学・計測制御部門と共同で部門同好会を開催した。参加者は10名であった。
- 3) 2013年11月1日(金)から3日(日)に工学院大学新宿

キャンパスにおいて、シンポジウム：スポーツ・アンド・ヒューマン・ダイナミクス2013を開催した。一般講演発表106件と特別講演1件、基調講演1件が行われた。有料参加者は228名であった。

- 4) シンポジウム：スポーツ・アンド・ヒューマン・ダイナミクスを、機械力学・計測制御部門の行事と位置付け、2012年のシンポジウム発表者から優秀者1名に対してオーディエンス表彰した。
- 5) 本専門会議のニュースレター第4号を発刊し、登録会員に配布した。
- 6) 第91期の収支決算ならびに第92期予算案を検討し、2014年度の主要行事としてシンポジウム：スポーツ・アンド・ヒューマン・ダイナミクス2014を2014年10月29日(水)～31日(金)の期間にアオーレ長岡で開催することを決定した。
- 7) 本専門会議の活動を活性化するための、研究会を2件程度設置した。
- 8) スポーツ・アンド・ヒューマン・ダイナミクス部門設立を目指して、設立趣意書を提出した。

〔所属研究会〕

A-TS F03-01 スポーツ風洞研究会

主査：伊藤慎一郎 開催：1回

A-TS F03-02 体操競技のダイナミクス解析および指導方法に関する研究会

主査：西脇一宇 開催：4回

3. 医工学テクノロジー推進会議：委員長 田中真美、他30名、運営委員会開催1回

- 1) 運営委員会を組織し、今後の運営方針を検討した。
- 2) 2013年度年次大会(岡山大)において、我が国の医工連携の最新の成果に関して発表を行うオーガナイズドセッション「医工学テクノロジーによる医療・福祉機器開発」1件、OS1件、ワークショップ3件(若手発表会含む)、先端技術フォーラム1件を企画した。
- 3) 2014年度年次大会(電機大)における部門企画行事について運営委員会で審議し、オーガナイズドセッション「医工学テクノロジーによる医療・福祉機器開発」、臨床医を招聘予定のワークショップ「今さら聞けない臨床診断の思考プロセスー臨床志向の医工学研究を考えるー」等の企画を賛同部門とともに進めている。
- 4) 日本機械学会第26回バイオエンジニアリング講演会の協力組織として支援した。
- 5) 2014年度の内視鏡外科学会において、医工連携に関するセッションの企画準備を進めている。
- 6) 本推進会議を機械学会の窓口としている日本医工ものづくりコモンズが、ニーズ・シーズ交換会、ワークショップ、臨床系とのワークショップを主催した。

〔部門協議会直属分科会〕

P-S C C 1 1 : マイクロ気体流れに関する調査研究分科会：主査 新美智秀、他22名、分科会開催回数1回

1. 2011年4月設置。2013年3月の設置期間終了までに8回の分科会を開催。2013年3月に最終分科会を開催した。
2. 第8回 2013年3月28日(木) 15:00-18:00最終分科会(於 名古屋大学 工学研究科2号館 会議室)
松田佑委員、山口浩樹委員より話題提供が行われ、続いて今後の活動についての議論を行った。引き続き、名古屋大学工学研究科マイクロ熱流体工学研究室の実験設備等の見学が行われた。
3. 2013年4月22日(月) 最終報告書提出
4. 日本機械学会2013年度年次大会(岡山大学)において、2013年9月9日(月)14:15-16:15ワークショップW05200「マイクロ気体流れ」を実施した。山口浩樹委員、米村茂委員、杵淵郁也委員、塩見淳一郎委員より話題提供があり、活発な討論が行われた。

P-S C C 1 2 : 高度物理刺激と生体応答に関する研究分科会：主査 佐藤岳彦、他56名、分科会開催回数5回

1. 第1回 2013年7月5日(金) 13:00~17:50、6日(土) 9:00~12:00(於 東京大学生産技術研究所)
8名の委員により研究内容紹介ならびに討論が行われた。また、東京大学生産技術研究所の関連実験設備等の見学会

が行われた。

2. 第2回 2013年9月10日(火) 9:00~12:00(於 岡山大学津島キャンパス)
5名の委員により研究内容紹介ならびに討論が行われた。第2回分科会は2013年度年次大会のワークショップとして企画した。
3. 第3回 2013年11月27日(水) 9:00~17:00(於 仙台国際センター)
8名の委員により研究内容紹介ならびに討論が行われた。また、海外より外国人講演者2名を招聘し基調講演を行った。第3回分科会は10th International Conference on Flow Dynamicsのオーガナイズドセッションとして企画した。
4. 第4回 2014年1月30日(木) 14:00~18:00、31日(金) 9:30~11:40(於 大阪大学豊中キャンパス)
7名の委員により研究内容紹介ならびに討論を行う予定である。また、大阪大学基礎工学研究科の関連実験設備等の見学会を行う予定である。
5. 2014年2月22日(土) 13:30~17:00、23日(日) 9:00~12:00(於 岩手大学)
電気学会、静電気学会、プラズマ・核融合学会、機械学会の4学会合同委員会を開催し研究内容紹介ならびに討論を行う予定である。

P-S C C 2-4 : 配管減肉管理法の改良・実用化に向けた調査研究分科会：主査 稲田文夫、他31名、分科会開催回数4回、WG開催回数4回

1. 第2回予測手法検討WG 2013年4月9日午後(於電中研)
ベンチマーク方向性、Kellerの形状係数
2. 第3回分科会 4月23日 午後(於電中研)
技術知見の改定、ベンチマーク用実験データ、各評価モデル、局所減肉許容基準
3. 第3回予測手法検討WG 6月24日午後(於電中研)
ベンチマーク用実験データ、実験データによるベンチマーク結果
4. 第4回分科会 7月4日 午後(於電中研)
Kellerの形状係数、ヒドラジン影響、実験データによるベンチマーク結果
5. 第4回予測手法検討WG 10月8日午後(於電中研)
実機ベンチマーク結果
6. 第5回分科会 10月17日 午後(於電中研)
実機ベンチマーク結果、ロードマップ改訂、物質移動係数評価用の乱流モデル
7. 第5回予測手法検討WG 2014年1月16日午後、第6回分科会 1月23日午後(予定) 報告書の議論

〔部門所属分科会〕

P-S C D 3 6 9 : 環境に配慮した歯車の加工と運転技術に関する調査研究分科会：主査 吉野英弘、他34名、開催1回

1. 2010年5月設置
2. 2013年4月の設置期間終了までに15回の分科会を開催。2013年3月、最終分科会を開催した。
2013年3月18日(月)最終分科会(第15回)を開催。
・cBN工具による高硬度浸炭材切削について
・歯車生産技術の目指すべき方向について
3. 2013年5月、最終報告書を提出。

P-S C D 3 7 0 : 柔軟媒体ハンドリング技術及び応用プロセスに関する調査研究分科会：主査 橋本 巨、他98名、開催0回

1. 2010年4月設置
2. 2013年3月の終了期間までに合計9回の分科会を開催し、合計31件の研究成果や事例の紹介がなされた他、PE分野の著名な研究者5名の方々から現状の動向や今後の展開、関連する材料技術や製造プロセスでの課題等について講演をいただいた。
3. 2013年3月の終了期間までの2014年度活動1ヵ月の間、本研究調査分科会に続く新たな分科会発足準備と、本分科会活動での講演や事例紹介資料を取り纏めた活動報告書(CD形式)の作成を行った。
○新たな分科会発足準備
・本分科会参加委員に対するアンケート調査を実施。

- ・活動継続希望のアンケート結果多数あり、新たに「柔軟媒体ハンドリング技術及び応用プロセスに関する調査研究分科会(2)」を発足させるため、IIP部門主査会議にて審議、了解を得た。

○活動報告資料作成

- ・CD形式の活動報告書を作成。

P-SCD373: 荷重・耐力係数法による信頼性評価の実用化に関する研究分科会: 主査 酒井信介, 他26名, 開催1回

1. 2013年3月1日, 12年度第五回分科会(東京大学山上会館)

- ・分科会成果物の配布および確認, 関連動向紹介
- 2013年3月26日(火) 分科会成果物提出。

P-SCD374: 粉末成形体および焼結材料の寸法形状と構造制御研究分科会: 主査 品川一成, 他23名, 開催2回

1. 2011年3月設置

2. 今年度は分科会を2回開催し, 以下の項目を話題として取り上げ(共催については本分科会委員が取り上げた項目のみ示す), 粉末成形体および焼結材料の寸法形状と構造制御に関する調査研究を行った。

2013年8月30日(金)~31日(土) [焼結研究会その他と共催]

- ・粉末成形マイクロ構造体の焼結における粒界移動と収縮変形の連成解析について
- ・MIMプロセスによる超強靱焼結低合金鋼の創製ならびにその解析について
- ・鉄複ホウ化物系サーメット合金の内部摩擦におけるCrの溶質ピークについて
- ・酸素を利用したTiNi系形状記憶粉末合金の強度ヒステリシスについて
- ・振動成形法とミリ波焼結法を組み合わせた高熱伝導性AlN部品の創成について

2013年10月23日(水)

- ・広島近郊の粉末関連の企業について
- ・コーティングとウェーブハンドリングについて
- ・AlNセラミックスの焼結と微構造制御について
- ・湿式プロセスを用いて作製された成形体の多目的利用について
- ・粒子分散複合材料の粒子空間分布定量化法の開発について

P-SCD375: 運動と振動の制御に関する人間中心設計研究分科会: 主査 西村秀和, 他34名, 開催5回

2013年度は会合を2回開催し, 話題提供と情報交換を行った。

- (1) 8月2日 東芝研究開発センター 出席者数17名

- ・ものづくりとひとつのりのための設計科学
- ・委員によるディスカッション
- ・東芝科学館の見学

- (2) 10月18日 埼玉大学機械工学科 出席者数15名

- ・超音波メカトロニクス
- ・乗員保護システム設計のための人体力学モデル
- ・委員によるディスカッション
- ・制御工学研究室, 機械要素研究室の見学

加えて以下の学術講演会においてオーガナイズドセッションを企画し, 議論を行った。

- (1) 8月27日 MOVIC2013 九州産業大学
オーガナイズドセッション「MBSE(モデルベースシステムズエンジニアリング)と1D-CAE」(4件)

- (2) 9月11日 2013年度年次大会 岡山大学津島キャンパス
オーガナイズドセッション「1DCAEを活用した設計と教育」(3件)

- (3) 11月17日 第56回自動制御連合講演会 新潟大学工学部
オーガナイズドセッション「運動と振動の制御」(11件)

P-SCD376: 衝撃負荷下における応力・ひずみ評価の精度向上に関する分科会: 主査 小林秀敏, 他27名, 開催3回

1. 2012年4月設置

2. 本年度は分科会の開催を3回予定しており, 現在そのうち2回開催し, 以下の項目を話題として取り上げ, 衝撃負

荷下における応力・ひずみ評価の精度向上に関する調査研究を行った。第3回目の分科会については, 2014年2月ないし3月に, 発泡金属などの機械材料の衝撃変形挙動について, まとめの調査研究会を行う予定であるが, 日程等の詳細は未定である。

2013年10月25日(金)

- ・モバイルカバー用化学強化ガラスDragontrailとその強度設計

旭硝子(株) 中央研究所 主席 秋葉周作氏

- ・アクリル樹脂発泡フィルムの動的変形挙動と衝撃低減効果の評価

豊橋技術科学大学 教授 足立忠晴氏, 院生 竹尾恭平氏

2014年1月6日(月)

- ・高減衰セラミックスを用いた高性能防弾衣の研究開発 諏訪東京理科大学 教授 西山勝廣氏, 院生 田中公美子氏

- ・岩石の衝撃破壊とそれに伴う電磁的現象

大阪大学 教授 小林秀敏氏

P-SCD377: 情報機器のメカニクス制御に関する研究分科会: 主査 有賀敬治, 他26名, 開催4回

1. 2012年4月設置

2. 今期は分科会を4回開催し, 以下の話題提供, 議論を行った。(前期からの継続回数で記載)

第5回 2013年5月15日(水)

- ・カシメによるベースプレート変形の弾塑性力学的検討
- ・機構共振変化を考慮した位置決め制御系ノッチフィルタの設計手法

- ・HDD用流体軸受スピンドルの衝撃応答実験

第6回 2013年8月23日(金)

- ・自動運転の可能性と課題
- ・MEMSプローブデバイスのナノトライボロジ制御技術とその他情報機器への応用

・ISPS2013報告・HDI・メカサーボ

第7回 2013年11月15日(金)

- ・HGSTの紹介および新開発ヘリウム封入HDDについて

・TMRC2013報告

- ・狭トラック幅リードヘッドの開発

第8回 2013年2月14日(金) 予定

- ・東芝ストレージの紹介

- ・ヘッドスライダの接触振動とコンタクト記録スライダ設計法

- ・(打診中)

P-SCD378: 窒化物半導体デバイスに関わる超精密加工プロセス研究分科会: 主査 只友一行, 他80名, 開催7回

1. 2012年4月設置

2. 窒化物半導体に関してエピタキシー前後のプロセスの議論が殆ど行われていない点を憂慮し, デバイスプロセスに関わる技術を議論する場として, 計7回の講演会を開催した。

- ・第5回 2013年2月20日(水) (精密加工プロセス研究会主催)

省略

- ・第6回 2013年3月21日(木) (IIP2013)

テーマ: 窒化物LEDに関わる先端デバイスプロセス

・第7回 2013年5月28日(火)

テーマ: 最新評価技術に見る窒化物半導体デバイスの現状と課題

- ・第8回 2013年6月20日(木) (精密加工プロセス研究会主催)

省略

- ・第9回 2013年9月11日(水) (日本機械学会年次大会)

テーマ: 次世代窒化物半導体デバイスとその精密加工技術の展望

- ・第10回 2013年11月18日(月) (精密加工プロセス研究会主催)

省略

- ・第11回 2013年12月16日(月)

P-SCD 379：形状記憶材料による構造の多機能化とその設計および応用に関する分科会：主査 池田忠繁，他61名，開催3回

1. 2011年11月設置
2. 今年度は分科会を3回開催し，以下の項目を話題として取り上げ，形状記憶材料の基礎ならびに先端的応用に関する調査研究を行った。
2013年3月26日（火）
 - ・形状記憶合金の新しい機能特性
 - ・単結晶磁性形状記憶合金の変形挙動2013年10月11日（金）
 - ・電気刺激応答性高分子アクチュエーター特にIPMCの脱水特性に関して
 - ・FeMnSiCr形状記憶合金のアクチュエーターへの応用に関する基礎実験2013年11月14日（木）～15日（金）（形状記憶合金協会との共催）
 - ・力学的生体適合機能性金属系生体構造用材料
 - ・医療用形状記憶合金のJIS化
 - ・制振材としての超弾性合金
 - ・熔融金属浸漬法によるNiTiのポーラス表面形成とその応用
 - ・窒素イオン注入によるTiNi形状記憶合金の疲労特性向上
 - ・TiNi系形状記憶合金の強加工による耐食性変化
 - ・負荷周波数に対する形状記憶合金の温度変化解析他

P-SCD 380：動力伝達用高性能歯車の設計と製造技術に関する調査研究分科会：主査 中西 勉，他49名，開催4回（運営に関する委員会1回を含む）

1. 2013年4月設置
2. 今年度は，分科会の運営に関する委員会を1回と分科会を3回開催し，以下の項目を取り上げ産業界における動力伝達用高性能歯車の設計と製造に関する技術開発の現状等について，調査研究を行った。
2013年7月22日（月）第1回 運営に関する委員会
 - ・委員名簿の確認について
 - ・分科会の運営について
 - ・平成25年度分科会活動計画について
 - ・MPT2013シンポジウム<伝動装置>における協力について2013年7月22日（月）第1回 分科会
 - ・歯車の研究と水産研究・教育等との関わりについて
 - ・JIMTOP2012出展機について
 - ・パワースカイピングについて2013年12月9日（月）第2回 分科会
 - ・歯車の強さ計算式における材料の許容応力と加工に関連する修正係数について
 - ・株式会社唐津鐵工所の会社概要と沿革並びに関連する歯車技術について
 - ・株式会社唐津鐵工所の会社概要と製品について
 - ・株式会社唐津鐵工所の工場見学2014年1月27日（月）第3回 分科会
 - ・最近の歯車機械加工の動向について
 - ・歯車加工における切削油とその対応について
 - ・鉄道車両用歯車装置の騒音評価と改善事例について

P-SCD 381：高圧水素機器の設計合理化に関する研究分科会：主査 吉川暢宏，他55名，開催5回

1. 2013年4月設置
2. 本年度は分科会を5回開催し，燃料電池自動車の普及に不可欠な利用可能鋼種拡大に向けて，「水素脆化する材料を使いこなす」方法論に関する議論を行った。
2013年4月10日（水）
 - (1) 鋼の水素脆化メカニズムと水素利用社会に向けての課題
 - (2) 高圧水素機器に適用可能な鋼種の拡大2013年7月12日（金）
 - (1) 高強度鋼SUJ2の疲労き裂進展特性に及ぼす内部水

素の影響

- (2) 軸受鋼の転がり疲労におけるせん断型疲労き裂進展に及ぼす水素の影響
 - (3) 高圧水素ガス中における高強度ステンレス鋼SUS630の破壊靱性と破損解析への応用
 - (4) 雰囲気制御高温微粒子ピーニングによる鋼の表面改質
 - (5) 実使用環境を想定して水素の影響を与えたアルミニウム合金の衝撃引張特性
 - (6) 自動車用材料の試験方法に関する国際動向
- 2013年9月13日（水）
- (1) CHMC1の検討
 - (2) 低合金鋼SCM435と炭素鋼SM490BのSSRT試験結果と疲労試験結果
 - (3) 水素ステーション蓄圧器用低合金鋼SCM435の高圧水素ガス中での破壊靱性
- 2013年10月12日（土）
- 岐阜大学で開催の材料力学部門講演会にて「水素社会を支える材料強度学-いま何が求められているか-」と題してワークショップを開催し下記項目に関する議論を行った。
- (1) Ni 当量を基準とした耐水素材料鋼種拡大
 - (2) 水素スタンド整備に必要な機器開発
 - (3) 耐水素材料開発
 - (4) 既存の鋼材料活用
 - (5) 自動車開発
 - (6) 高圧水素供給
- 2014年1月20日（月）
- (1) 水素スタンド用鋼製蓄圧器の材料選定と安全性評価について
 - (2) 新日鐵住金グループの高圧水素用材料
 - (3) 低合金鋼SCM435の切欠き試験片の疲労強度に及ぼす水素の影響 -カナダ規格CHMC1-
 - (4) 圧縮水素容器VH3容器の水圧力サイクル試験結果の解析法-CHMC1におけるもう一つの問題点-

P-SCD 382：せん断流の多様な機能の探究と先端科学技術への応用に関する研究分科会：主査 福西 祐，他22名，開催1回

1. 2013年10月設置
2. 11月に九州大学伊都キャンパスで開催された流体工学部門講演会にあわせて，第1回目の分科会を同大学の筑紫キャンパスで開催した。内容は以下の通りである。なお，開催にあたっては，委員の高曾先生にご尽力いただいたことを付記する。
第1回分科会プログラム
日時：2013年11月8日（金）午後1時30分～
場所：九州大学大学院総合理工学府F棟304講義室（筑紫キャンパス）
13：30～13：45 挨拶（分科会主査 福西 祐）
13：45～14：35 超音速せん断流における諸現象 -キャビティ流れとマイクロ噴流を例として-
九州大学 半田 太郎
14：35～15：25 せん断流中における変動圧力/壁面せん断応力計測
名古屋大学 寺島 修
15：25～15：40 休憩
15：40～16：30 空力キャビティ音の受動制御 -キャビティ内の流れとせん断層の相互干渉-
東北大学 伊澤 精一郎
16：30～研究室見学（F棟1階）
18：00～20：00 懇親会

P-SCD 383：アディティブマニュファクチャリングにおける生産システム工学の研究分科会：主査 塩谷景一，他23名，開催3回

1. 2013年12月設置
2. 分科会活動のための準備会合を2回開催し，アディティブマニュファクチャリングの国内外の研究動向に関して広く調査研究を行った。これにもとづき，第1回の全体ミーティングを開催予定。
2013年12月20日（金）
 - ・国内外の組織的取り組みについて

- ・「既存ものづくり」関連と「個人ものづくり」関連の取り組み例

2013年12月25日（水）

- ・AM研究調査で得た事例紹介
- ・分科会の方向性について
- ・1月ミーティング，生産システム部門研究発表講演会での活動計画

2014年1月29日（水）予定

- ・AM研究の事例紹介・情報収集

6・2 集會事業
《集會事業実施表》

複数部門で合同企画の場合は幹事部門にカウント

部門・専門会議	部門長・運営委員長	運営委員 (副部門長・幹事含)	講演会	講習会	特別講演会・見学会・他
計算力学部門	山本 誠	32名	1	5	-
バイオエンジニアリング部門	山根隆志	32名	2	1	3
材料力学部門	川上 崇	31名	1	3	-
機械材料・材料加工部門	井原郁夫	32名	1	2	6
流体工学部門	福西 祐	32名	2	7	2
熱工学部門	小林秀昭	34名	1	1	2
エンジンシステム部門	後藤新一	17名	1	2	-
動力エネルギーシステム部門	阿部 豊	32名	1	1	3
環境工学部門	秋澤 淳	32名	2	3	6
機械力学・計測制御部門	曄道佳明	32名	5	5	-
機素潤滑設計部門	大岡昌博	31名	2	5	-
設計工学・システム部門	加藤 廣	32名	2	6	1
生産加工・工作機械部門	渋谷哲郎	32名	1	4	2
生産システム部門	塩谷景一	32名	2	1	1
ロボティクス・メカトロニクス部門	新井史人	32名	1	1	17
情報・知能・精密機器部門	鈴木健司	32名	1	1	4
産業・化学機械と安全部門	戸枝 毅	20名	2	2	9
交通・物流部門	藤田 聡	24名	2	1	2
宇宙工学部門	古谷 寛	32名	1	-	12
技術と社会部門	池森 寛	29名	1	-	17
マイクロ・ナノ工学部門	小寺秀俊	29名	1	-	-
法工学専門会議	荒木 勉	21名	-	-	-
スポーツ・アンド・ヒューマン・ダイナミクス専門会議	伊藤慎一郎	23名	1	-	1
理工学テクノロジー推進会議	田中真美	29名	-	-	-

《行事別集計表》

行事種別	開催回数	研究発表題数	依頼講演数	参加数
講演会(本会主催国際会議含む)	34	5,927	123	9,626
講習会	51		305	1,976
特別講演会・見学会・他	88		123	7,599
合計	173	5,927	551	19,201

6・2・1 研究発表講演会(本会主催国際会議含む)

企画部門	開催年/月/日	行事No.	講演会名	講演 題数	依頼 講演	参加 数	有料 参加	開催地
計算力学部門	2013 11 2 ~ 4	13-3	第 26 回計算力学講演会	403	2	547	537	佐賀
バイオエンジニアリング部門	2013 11 1 , 2	13-68	第 24 回バイオフロンティア講演会	100	-	207	207	京都
バイオエンジニアリング部門	2014 1 11 , 12	13-69	第 26 回バイオエンジニアリング講演会	274	2	459	454	仙台
材料力学部門	2013 10 11 ~ 14	13-8	M&M2013 材料力学カンファレンス	435	16	629	617	岐阜
機械材料・材料加工部門	2013 11 8 ~ 10	13-31	第 21 回機械材料・材料加工技術講演会(M&P2013)「安心・安全な社会を築くものづくり」	274	1	372	368	八王子
流体工学部門	2013 9 17 ~ 21	13-201	第 4 回噴流、後流及びはく離流れに関する国際会議(ICJWSF-2013)	156	7	219	201	名古屋
流体工学部門	2013 11 9 , 10	13-33	第 91 期流体工学部門講演会	317	12	533	531	福岡
熱工学部門	2013 10 19 , 20	13-55	熱工学コンファレンス 2013	229	1	399	398	弘前
エンジンシステム部門	2013 11 30	13-47	第 16 回回生・リターンサイクルシンポジウム	36	2	91	73	東京
動力エネルギーシステム部門	2013 6 20 , 21	13-10	第 18 回動力・エネルギー技術シンポジウム	166	1	285	283	千葉
環境工学部門	2013 4 16 ~ 18	13-7	第 47 回回生・リターンサイクルシンポジウム	42	8	171	163	東京
環境工学部門	2013 7 10 ~ 12	13-15	第 23 回環境工学総合シンポジウム 2013	116	2	237	235	東京
機械力学・計測制御部門	2013 5 15 ~ 17	13-4	第 25 回「電磁力関連のダイナミクス」シンポジウム(SEAD25)	138	3	196	193	神奈川県箱根町
機械力学・計測制御部門	2013 8 26 ~ 30	13-18	Dynamics and Design Conference 2013 第 13 回「運動と振動の制御」シンポジウム(MoViC2013) 総合テーマ:「海を越え、国を超え、世代を超えて!」	469	3	715	712	福岡
機械力学・計測制御部門	2013 8 27 , 28	13-204	第 3 回 JSME-KSME ダイナミクス&コントロールに関する ジョイントシンポジウム	61	-	56	56	福岡
機械力学・計測制御部門	2013 11 16 , 17	13-23	第 56 回自動制御連合講演会	374	1	566	565	新潟
機械力学・計測制御部門	2013 12 2 , 3	13-24	第 12 回評価・診断に関するシンポジウム	34	1	72	71	名古屋
機素潤滑設計部門	2013 9 2 ~ 4	13-5	生活生命支援医療福祉工学系学会連合大会 2013	155	8	289	275	甲府
機素潤滑設計部門	2013 11 14 ~ 16	13-17	運動及び動力伝達機構(Motion and Power Transmission)2013 シンポジウム<伝動装置>	68	2	188	169	宮崎
設計工学・システム部門	2013 10 23 ~ 25	13-22	第 23 回設計工学・システム部門講演会	145	2	194	183	沖縄県読谷村
設計工学・システム部門	2013 11 28 ~ 30	13-205	設計工学ワークショップ 2013 (DEWS2013)	47	0	67	67	北九州
生産加工・工作機械部門	2013 11 7 , 8	13-203	第 7 回 JSME 先端生産技術に関する国際会議 (LEM21)	135	3	179	176	宮城県松島町
生産システム部門	2013 3 12	13-6	生産システム部門研究発表講演会 2013	53	2	95	92	東京
生産システム部門	2013 7 18 ~ 20	13-202	スケジューリング国際シンポジウム 2013	30	4	58	55	東京
ロボティクス・メカトロニクス部門	2013 5 22 ~ 25	13-2	ロボティクス・メカトロニクス講演会 2013 (ROBOMEC2013 in Tsukuba)	1,148	10	1,764	1,749	つくば
情報・知能・精密機器部門	2013 3 21 , 22	13-11	IIP2013 情報・知能・精密機器部門(IIP 部門)講演会	73	1	160	151	東京
産業・化学機械と安全部門	2013 6 21	13-57	産業・化学機械と安全部門 研究発表講演会 2013	13	-	23	23	横浜
産業・化学機械と安全部門	2013 11 15	13-122	産業・化学機械と安全部門 研究発表講演会 2013 秋	6	1	10	10	東京
交通・物流部門	2013 12 10 ~ 12	13-63	第 22 回交通・物流部門大会 (TRANSLOG2013)	72	21	204	186	東京
交通・物流部門	2014 1 24	13-86	技術講演会 昇降機・遊戯施設等の最近の技術と進歩	7	2	59	51	東京
宇宙工学部門	2013 12 20 , 21	13-88	第 22 回スペース・エンジニアリング・コンファレンス [SEC'13]	39	-	68	68	東京
技術と社会部門	2013 11 30	13-67	技術と社会の関連を巡って:過去から未来を訪ねる	55	2	79	77	周南
マイクロ・ナノ工学部門	2013 11 5 ~ 7	13-61	第 5 回マイクロ・ナノ工学シンポジウム	151	1	205	201	仙台
スポーツ・アンド・ヒューマン・ダイナミクス専門会議	2013 11 1 ~ 3	13-34	スポーツ・アンド・ヒューマン・ダイナミクス 2013	106	2	230	228	東京

6・2・2 講習会

企画部門	開催年/月/日	行事 No.	講習会名	題数	参加数	有料参加	開催地
計算力学部門	2013 7 30 , 31	13-77	構造解析のための有限要素法入門～ひとり一台のパソコンによる演習付～	5	7	7	横浜
計算力学部門	2013 11 8	13-91	計算力学技術者 2 級(固体力学分野の有限要素法解析技術者)認定試験対策講習会	6	17	17	大阪
計算力学部門	2013 11 9	13-92	計算力学技術者 2 級(固体力学分野の有限要素法解析技術者)認定試験対策講習会	6	82	82	横浜
計算力学部門	2013 11 15	13-93	計算力学技術者 2 級(固体力学分野の有限要素法解析技術者)認定試験対策講習会	6	10	10	福岡
計算力学部門	2013 11 16	13-94	計算力学技術者 2 級(固体力学分野の有限要素法解析技術者)認定試験対策講習会	6	34	34	名古屋
バイオエンジニアリング部門	2014 1 25	13-162	講習会 有限要素法による骨のバイオメカニクス解析入門～理論から応用まで～	6	34	31	東京
材料力学部門	2013 7 4	13-37	「よく分かる材料力学」-設計・生産技術者のための基礎講座 第 17 回-	6	19	17	東京
材料力学部門	2013 7 5	13-38	「よく分かる破壊力学・弾性力学」-設計・生産技術者のための基礎講座 第 18 回-	6	33	31	東京
材料力学部門	2013 7 8	13-50	有限要素法による構造強度設計入門～CAE の V&V と IDCAE を学ぶ	4	28	25	東京
機械材料・材料加工部門	2013 10 3 , 4	13-64	講習会「もう一度学ぶ機械材料学」-機械・製造技術者のための基礎講座-	5	28	23	東京
流体工学部門	2013 3 7	13-14	講習会「流体騒音・振動」	4	88	75	東京
流体工学部門	2013 6 12	13-44	講習会「CFD の基礎とノウハウ」	4	59	53	東京
流体工学部門	2013 6 27 , 28	13-60	講習会 流体力学基礎講座-計測原理から数値計算の導入まで-	3	71	67	東京
流体工学部門	2013 8 7	13-72	講習会「実験流体力学 基礎技術から応用まで」	4	21	13	東京
流体工学部門(幹事部門), 計算力学部門, 熱工学部門	2013 10 5 , 6	13-89	計算力学技術者 2 級(熱流体力学分野の解析技術者)認定試験対策講習会(関東地区会場)	7	42	37	東京
流体工学部門	2013 11 19	13-124	講習会「光学計測の原理とその応用」	4	37	27	東京
流体工学部門(幹事部門), 計算力学部門, 熱工学部門	2013 11 30 , 12/1	13-90	計算力学技術者 2 級(熱流体力学分野の解析技術者)認定試験対策講習会(関西地区会場)	7	17	10	大阪
熱工学部門	2013 9 19 , 20	13-58	講習会「伝熱工学資料(改訂第 5 版)」の内容を教材にした熱設計の基礎と応用	8	52	42	東京
エンジンシステム部門	2013 11 22	13-116	基礎教育講習会-エンジン技術の基礎と応用(その 26)	5	63	46	東京
エンジンシステム部門	2014 1 10	13-145	高効率ガソリンエンジン・ガスエンジンの点火制御技術	5	52	41	東京
動力エネルギーシステム部門	2013 10 18	13-131	講習会「見学会付」コージェネレーションとヒートポンプを用いた省エネ最前線・最新鋭の省エネ・キャンパスの見学	2	21	19	東京
環境工学部門	2013 6 7	13-39	講習会 静音設計のための防音・防振技術	5	52	45	東京
環境工学部門	2013 10 30	13-108	講習会 流体音の制御・静音化	5	49	46	東京
環境工学部門	2013 11 26	13-142	冷凍空調技術に関するシミュレーション技術Ⅲ	5	30	26	東京
機械力学・計測制御部門	2013 5 27 , 28	13-28	講習会 振動モード解析実用入門-実習付き-	6	56	53	東京
機械力学・計測制御部門	2013 7 1	13-29	講習会 マルチボディシステム運動学の基礎	4	27	27	東京
機械力学・計測制御部門	2013 7 2	13-30	講習会 マルチボディシステム動力学の基礎	4	20	20	東京
機械力学・計測制御部門	2013 10 26 , 27	13-98	計算力学技術者 2 級(振動分野の有限要素法解析技術者)認定試験対策講習会(関東地区会場)	12	29	29	東京
機械力学・計測制御部門	2013 11 9 , 10	13-99	計算力学技術者 2 級(振動分野の有限要素法解析技術者)認定試験対策講習会(東海地区会場)	12	10	10	名古屋
機械力学・計測制御部門	2014 1 22 , 23	13-152	講習会 回転機械の振動と HIL 実習	6	40	39	東京
機素潤滑設計部門	2013 11 21 , 22	13-109	講習会 歯車技術基礎講座	9	67	60	横浜
機素潤滑設計部門	2013 11 22	13-123	講習会 触覚技術の基礎と応用-ヒトの触覚理解からヒューマンマシンインタフェースやロボットへの応用まで-	12	84	68	東京
機素潤滑設計部門	2013 11 25	13-106	講習会-若手機械設計技術者のために-機械設計のための機構学と、機構における摩擦の基本的取り扱いと活用事例	6	45	39	東京
機素潤滑設計部門	2013 12 2	13-130	講習会 フルード(流体)を用いたアクチュエータ技術の最前線	6	39	33	東京
機素潤滑設計部門	2014 1 31	13-151	講習会 じっくり聴く境界潤滑の基礎と応用-常識と誤解-	3	50	49	東京
設計工学・システム部門	2013 7 29 , 30	13-75	「IDCAE 概念に基づくものづくり設計教育(導入・基礎～IDCAE 設計のための 4 つの力学)」	7	64	57	東京
設計工学・システム部門	2013 9 4	13-97	講習会「自動車における 3 次元設計の現状と課題」	6	37	27	東京
設計工学・システム部門	2013 9 27	13-113	講習会「VR を用いた設計の新しい検討手法の紹介」	6	25	19	東京
設計工学・システム部門	2013 11 11	13-126	講習会「低コスト CAE 活用による設計検討手法の紹介」	4	24	19	東京
設計工学・システム部門	2013 12 12	13-150	講習会「創造的な解を生み出し、それを実現する『システムズエンジニアリング』と『デザインシンキング』」	4	39	34	横浜
設計工学・システム部門	2014 2 6 , 7	13-168	講習会「IDCAE 概念に基づくものづくり設計教育:第二弾(基礎・応用・実習・事例～原理・原則に基づく IDCAE 設計)」	7	47	39	東京
生産加工・工作機械部門	2013 3 4 , 5	13-20	講習会-生産加工基礎講座-実習で学ぼう「切削加工, びりり振動の基礎知識」	3	12	12	名古屋
生産加工・工作機械部門	2013 6 28	13-42	講習会 単結晶を凌駕するナノ多結晶ダイヤモンド(NPD)の開発と応用	5	26	26	東京
生産加工・工作機械部門	2013 12 18	13-144	講習会 3D プリントによる金属部品製造の最前線	5	51	51	小金井
生産加工・工作機械部門	2014 1 21	13-155	講習会 航空機製造技術の動向～信頼性, 省エネ, 新素材～	5	39	39	東京
生産システム部門	2014 1 28	13-160	生産システム部門 講習会(工場見学付)「今後のものづくりの動向と生産システムの方向性」オムロン(株)草津事業所見学付	4	18	18	草津
ロボティクス・メカトロニクス部門	2013 3 9 , 10	13-13	英語力強化合宿 Academic Boot Camp	6	11	11	幕張
情報・知能・精密機器部門	2013 10 25	13-110	機械計測技術の基礎講習会	4	16	15	東京
産業・化学機械と安全部門	2013 8 2	13-74	講習会 安全評価・認証の実務者が語る「第三者評価・認証のキーポイント」	4	18	18	東京
産業・化学機械と安全部門	2014 2 7	13-158	講習会 安全評価・認証の実務者が語る『機械安全と第三者評価・認証』	6	54	54	小松
交通・物流部門	2013 11 25	13-134	とことん分かる自動車のモデリングと制御 2013	6	39	33	東京
イノベーションセンター技術者教育委員会	2013 5 31	13-51	技術士受験セミナーB コース-技術士 2 次試験 筆記試験対策-	11	21	9	東京

企画部門	開催年/月/日	行事 No.	講習会名	題数	参加数	有料参加	開催地
イノベーションセンター技術者教育委員会	2013 7 5	13-52	技術士受験セミナーA コース-技術士1次試験対策-	7	18	10	東京
イノベーションセンター技術者教育委員会	2013 11 1	13-53	技術士養成講座C コース-技術士2次試験口頭試験対策-	1	4	1	東京

6・2・3 特別講演会・見学会・他

企画部門	開催年/月/日	行事 No.	行事名	題数	参加数	有料参加	開催地
バイオエンジニアリング部門	2013 3 29	13-25	第41回バイオサロン	1	25	24	東京
バイオエンジニアリング部門	2013 11 1	13-231	バイオフロンティア・シンポジウム2013	2	120	無料	京都
バイオエンジニアリング部門	2014 1 10	13-161	第42回バイオサロン	1	14	13	仙台
機械材料・材料加工部門	2013 3 29	13-27	第8回「M&P サロン」	1	25	18	東京
機械材料・材料加工部門	2013 5 31	13-46	第9回「M&P サロン」	1	17	9	東京
機械材料・材料加工部門	2013 7 26	13-71	第10回「M&P サロン」	1	16	8	東京
機械材料・材料加工部門	2013 9 27	13-107	第11回「M&P サロン」	1	20	6	東京
機械材料・材料加工部門	2013 11 29	13-133	第12回「M&P サロン」	1	14	13	東京
機械材料・材料加工部門	2014 1 31	13-154	第13回「M&P サロン」	1	27	7	東京
流体工学部門	2013 8 13, 14	13-48	第19回流れのふしぎ展	2	2,000	無料	東京
流体工学部門	2013 11 9	13-56	第12回「流れの夢コンテスト」	1	100	無料	福岡
熱工学部門	2013 3 8	13-41	沸騰伝熱について徹底討論～Stephan 教授を迎えて 沸騰・相変化伝熱講演会～	7	45	無料	東京
熱工学部門	2013 10 17, 18	13-115	熱工学コンファレンス2013「プレコンファレンスワークショップ」	5	29	24	弘前
動力エネルギーシステム部門	2013 5 16, 17	13-45	「見学会 九州地方における再生可能エネルギー技術」～メガソーラー・地熱・バイオマス・風力の各発電所およびバイオマス水素製造所の視察～	-	28	28	熊本他
動力エネルギーシステム部門	2013 8 2	13-100	JSME ジュニア会女向け 機械の日特別企画 親子見学会-自由研究コンクール～日本エネルギー産業の発展、現在、そして未来へ～	-	37	無料	日立
動力エネルギーシステム部門	2013 11 1	13-101	第23回セミナー&サロン エネルギー分野における社会イノベーショングローバル社会における3E実現への貢献-(併催:部門賞贈呈式)	3	86	46	東京
環境工学部門	2013 5 8	13-49	大気圧プラズマによる環境対策に関する特別講演会-健康社会・環境改善のための最先端プラズマ技術-	4	28	24	東京
環境工学部門	2013 8 21	13-87	夏休み親子向けイベント(熱を体験してみよう)	-	18	無料	横浜
環境工学部門	2013 8 24	13-70	手作りで音を楽しもう-環境にやさしい夏休み親子向けイベント	-	33	無料	川崎
環境工学部門	2013 12 13	13-132	見学会「下水汚泥燃料化施設見学会 広島市西部水資源再生センター」	-	13	13	広島
環境工学部門	2013 12 13	13-139	「一般財団法人電力中央研究所 横須賀地区」見学会	-	13	無料	横須賀
環境工学部門	2014 1 31	13-159	「長岡市生ごみバイオガス発電センター」見学会	-	12	12	長岡
設計工学・システム部門	2013 10 22	13-140	特別シンポジウム「最新設計技術-世界は今」	2	51	無料	沖縄県中頭郡
生産加工・工作機械部門	2013 7 13, 14	13-78	コンピュータ支援ものづくり体験	2	50	無料	飯塚
生産加工・工作機械部門	2013 11 9	13-119	理工系大学生・大学院生・高専生を対象としたセミナー「ものづくり最前線」	5	34	無料	大阪
生産システム部門	2013 3 11	13-21	「株式会社ツムラ 工場見学会」-医療品製造工程に学ぶ生産システムのなりたち-	-	12	無料	茨城県稲敷郡
ロボティクス・メカトロニクス部門	2013 3 2	13-12	Pico-EV・エコチャレンジ2013	-	100	無料	八王子
ロボティクス・メカトロニクス部門	2013 3 23, 24	13-9	第16回ロボットグランプリ	-	1800	無料	東京
ロボティクス・メカトロニクス部門	2013 7 6	13-62	親子メカトロ教室「走れ!ロボットカー」	-	52	無料	札幌
ロボティクス・メカトロニクス部門	2013 8 17	13-102	親子マイクロロボット工作教室	-	21	12	埼玉県宮代町
ロボティクス・メカトロニクス部門	2013 9 25	13-114	東北地区特別講演会「情報とロボティクス」	2	29	無料	仙台
ロボティクス・メカトロニクス部門	2013 10 26	13-118	移動ロボットを動かしてみよう!-小学生を対象とした親子ロボット教室-	-	12	無料	岡山
ロボティクス・メカトロニクス部門	2013 11 8	13-141	東海地区特別講演会「車輪型移動装置の操作支援技術」	-	25	無料	豊橋
ロボティクス・メカトロニクス部門	2013 11 10	13-135	親子ロボットスカベンジャー工作教室	-	24	24	習志野
ロボティクス・メカトロニクス部門	2013 11 14	13-120	見学会「Hitex 日立造船(株)堺工場」	-	33	33	堺
ロボティクス・メカトロニクス部門	2013 12 7	13-103	九州地区競技会「フューチャードリーム!ロボメカ・デザインコンペ」	-	300	無料	福岡
ロボティクス・メカトロニクス部門	2013 12 13	13-166	東北地区特別講演会「生物に学ぶロボティクス」	2	26	無料	仙台
ロボティクス・メカトロニクス部門	2013 12 18	13-164	安全回復システムフォーラム2013	-	20	無料	神戸
ロボティクス・メカトロニクス部門	2014 1 11, 25	13-157	四国地区 第3回小学生を対象としたロボット工作教室「ロボットについて知ろう!&作って動かしてみよう!」	-	64	無料	高松
ロボティクス・メカトロニクス部門	2014 1 11, 12	13-165	中国地区 幼稚園児・小学生工作教室「ロボットカーをつくらう!」	1	30	無料	東広島
ロボティクス・メカトロニクス部門	2014 1 25	13-156	四国地区 第2回小学生を対象としたロボット教室「レゴロボットであそぼう!」	-	28	無料	松山
ロボティクス・メカトロニクス部門	2014 2 5	13-173	特別講演会「バイオロボティクス最前線」	3	25	無料	東京
ロボティクス・メカトロニクス部門	2014 2 16	13-172	中国地区 小学生・中学生を対象とした講演会「災害から人を助けるロボットの夢への挑戦」	1	78	無料	広島
情報・知能・精密機器部門	2013 3 21	13-40	情報・知能・精密機器部門(IIP 部門)設立20周年記念特別講演会「技術立国復活へ向けた取組み」	3	60	無料	東京
情報・知能・精密機器部門	2013 8 21	13-105	柔軟媒体ハンドリング技術及び応用プロセスに関する調査研究分科会(2)第1回事例報告会	4	29	28	東京
情報・知能・精密機器部門	2013 9 2, 3	13-95	情報・知能・精密機器部門学生サマースクール	-	66	66	茨城県大洗町
情報・知能・精密機器部門	2014 1 28	13-163	柔軟媒体ハンドリング技術及び応用プロセスに関する調査研究分科会(2)第3回事例報告会	4	37	32	東京

企画部門	開催年/月/日	行事No.	行事名	題数	参加数	有料参加	開催地
産業・化学機械と安全部門	2013 3 6	13-16	第28回トワイライトセミナー プロセス産業におけるSQDC工程管理表を活用した安全管理活動の推進	1	13	13	東京
産業・化学機械と安全部門	2013 4 11	13-19	第29回トワイライトセミナー 技術士第二次試験-機械部門の受験対策講座	1	10	10	東京
産業・化学機械と安全部門	2013 6 19	13-59	第30回トワイライトセミナー ワーストケースシナリオ構築による事故未然防止の取り組み	1	19	19	東京
産業・化学機械と安全部門	2013 8 2	13-73	第1回産学連携学生アカデミー(学生対象事業)かくはん機械の設計・製造と操作	1	11	無料	戸田
産業・化学機械と安全部門	2013 10 12	13-117	第1回大学連携学生アカデミー(学生対象事業)東工大オープンキャンパス-化学工学への招待-	-	1	無料	東京
産業・化学機械と安全部門	2013 12 9	13-143	第3回学生アカデミー(研究所-大学連携)(学生対象事業)施設見学会~(独)労働安全衛生総合研究所~	-	14	無料	東京
産業・化学機械と安全部門	2013 12 17	13-147	第31回トワイライトセミナー 天然ガス資源の中長期需給動向~シエールガス革命への取組み~	1	9	9	東京
産業・化学機械と安全部門	2014 1 29	13-153	第4回学生アカデミー(企業-大学連携)(学生対象事業)施設見学会~東京ガス(株)横浜研究所~	-	5	無料	横浜
産業・化学機械と安全部門	2014 2 7	13-167	市民フォーラム 食品賞味期限と食の安全を考える~賞味期限1/3ルールから1/2ルールへ食品の安全性は~	2	10	無料	東京
交通・物流部門	2013 6 1	13-35	基礎セミナー「自動車の運動力学」	6	140	136	東京
交通・物流部門	2013 9 12, 13	13-80	集中初級セミナー「自動車の運動力学」	8	34	34	東京
宇宙工学部門	2013 3 19	13-32	市民・学生対象事業等 宇宙工学探訪~大学での研究最前線をのぞいてみよう~「熊本大学 安全環境科学研究室」	-	10	無料	熊本
宇宙工学部門	2013 5 17	13-66	市民・学生対象事業等 宇宙工学探訪(2)~大学での研究最前線をのぞいてみよう~「東京工業大学 ニューフロンティア基礎講座」	-	10	無料	横浜
宇宙工学部門	2013 7 20	13-83	市民・学生対象事業等 宇宙工学探訪(3)~大学での研究最前線をのぞいてみよう~「東京都市大学宇宙システム研究室」	-	10	無料	東京
宇宙工学部門	2013 8 4	13-111	市民・学生対象事業等 宇宙工学探訪(4)~大学での研究最前線をのぞいてみよう~「鳥取大学工学部機械工学科 固体力学研究室・制御ロボティクス研究室」	-	80	無料	鳥取
宇宙工学部門	2013 8 10	13-84	市民・学生対象事業等 宇宙工学探訪(5)~大学での研究最前線をのぞいてみよう~「摂南大学岸本研究室」	-	70	無料	寝屋川
宇宙工学部門	2013 8 10	13-85	市民・学生対象事業等 宇宙工学探訪(6)~大学での研究最前線をのぞいてみよう~「熊本大学安全環境科学研究室」	-	70	無料	寝屋川
宇宙工学部門	2013 11 10	13-138	市民・学生対象事業等 宇宙工学講座「衛星設計コンテストとその先にあるもの~大賞受賞経験者が語る宇宙への夢~」	2	22	無料	相模原
宇宙工学部門	2013 11 15	13-146	株式会社三菱電機 先端技術総合研究所 見学会	2	11	無料	尼崎
宇宙工学部門	2013 11 16	13-121	市民・学生対象事業等 実践セミナー「宇宙工学におけるシステムズエンジニアリング」	3	91	無料	東京
宇宙工学部門	2013 12 21	13-125	宇宙サロン 宇宙で食べる~宇宙日本食の開発~	4	34	30	東京
宇宙工学部門	2014 2 8	13-170	市民・学生対象事業等 宇宙工学講座「模擬人工衛星 CanSat の製作体験」	3	17	無料	船橋
宇宙工学部門	2014 2 8	13-171	市民・学生対象事業等 宇宙工学探訪(7)~大学での研究最前線をのぞいてみよう~「日本大学理工学部宮崎研究室」	-	4	無料	船橋
技術と社会部門	2013 3 27	13-26	イブニングセミナー(第158回)福島原発事故と放射線の人体へ及ぼす影響	1	79	77	東京
技術と社会部門	2013 4 24	13-36	イブニングセミナー(第159回)君達にはいたい事があるかね?記録映画「夢と憂鬱-吉野馨治と岩波映画」の上映	1	52	51	東京
技術と社会部門, イノベーションセンター	2013 5 18	13-54	第10回技術者のための技術者倫理セミナー-事故・不祥事の背景から学ぶリスクマネジメント:技術者の責任のとり方-	2	20	15	東京
技術と社会部門	2013 5 29	13-43	イブニングセミナー(第160回)ロボットが街を走る-搭乗型移動支援ロボットの公道実証実験-	1	37	32	東京
技術と社会部門	2013 6 26	13-65	イブニングセミナー(第161回)種から始める無肥料自然栽培	1	34	32	東京
技術と社会部門	2013 7 31	13-81	イブニングセミナー(第162回)コーヒーを香りから愉しむ-実習付き-	1	40	34	東京
技術と社会部門	2013 8 28	13-82	イブニングセミナー(第163回)宇宙を学ぶ・宇宙に学ぶ	1	47	41	東京
技術と社会部門	2013 9 25	13-112	イブニングセミナー(第164回)再生可能エネルギーの本格利用を支える新たな揚水発電プラントの開発-欧州における最近の動向-	1	52	49	東京
技術と社会部門	2013 9 28	13-76	第6回 新☆エネルギーコンテスト	-	63	無料	郡山
技術と社会部門	2013 10 12	13-79	第3回低温差スターリングエンジン競技会・発表会	-	43	無料	大分
技術と社会部門	2013 10 30	13-127	イブニングセミナー(第165回)新宿の寺は「よろず相談寺小屋」	1	38	32	東京
技術と社会部門, イノベーションセンター	2013 11 9	13-136	第11回技術者のための技術者倫理セミナー-事故・不祥事の背景から学ぶリスクマネジメント:設計会社と運営管理会社の責任-	2	16	11	東京
技術と社会部門	2013 11 27	13-148	イブニングセミナー(第167回)明治大学平和教育登戸研究所資料館の紹介	1	32	30	東京
技術と社会部門	2013 11 29	13-137	イブニングセミナー(第166回)日本とアメリカにおける倫理観の相違	1	16	15	周南
技術と社会部門	2013 12 1	13-128	見学会「山口県瀬戸内地方の技術史を訪ねて」	-	17	17	下松, 周南
技術と社会部門	2013 12 18	13-149	イブニングセミナー(第168回)低線量放射線被曝のリスクを再考する-「科学と社会」の視点から-	1	34	31	東京
技術と社会部門	2014 1 29	13-169	イブニングセミナー(第169回)いつも楽しく新しいことをやる!	1	56	51	東京
スポーツ・アンド・ヒューマン・ダイナミクス専門会議	2013 9 29	13-129	親子で学ぼう!科学の目でみる着衣泳「機械の日・機械週間」関連行事)	3	11	無料	東京
イノベーションセンター	2013 6 21		日本機械学会連続講座(NEDO 共催)「法と経済で読み解く技術のリスクと安全~社会はあなたの新技術を受け入れるか~」第1回 社会による新技術の受容と分離融合の必要性	1	62	無料	東京
イノベーションセンター	2013 7 19		日本機械学会連続講座(NEDO 共催)「法と経済で読み解く技術のリスクと安全~社会はあなたの新技術を受け入れるか~」第2回 法律は技術の安全に寄与しているのか	1	66	無料	東京
イノベーションセンター	2013 9 20		日本機械学会連続講座(NEDO 共催)「法と経済で読み解く技術のリスクと安全~社会はあなたの新技術を受け入れるか~」第3回 ロボットに係る社会制度の現状と課題	1	47	無料	東京

企画部門	開催年/月/日	行事No.	行事名	題数	参加数	有料参加	開催地
イノベーションセンター	2013 10 18		日本機械学会連続講座(NEDO 共催)「法と経済で読み解く技術のリスクと安全～社会はあなたの新技術を受け入れるか～」第4回 技術安全のための経済学的思考:インセンティブとガバナンスの視点	1	56	無料	東京
イノベーションセンター	2013 11 15		日本機械学会連続講座(NEDO 共催)「法と経済で読み解く技術のリスクと安全～社会はあなたの新技術を受け入れるか～」第5回 安全と自己決定	1	72	無料	東京
イノベーションセンター	2013 12 20		日本機械学会連続講座(NEDO 共催)「法と経済で読み解く技術のリスクと安全～社会はあなたの新技術を受け入れるか～」第6回 安全とCSR	1	50	無料	東京
イノベーションセンター	2014 1 17		日本機械学会連続講座(NEDO 共催)「法と経済で読み解く技術のリスクと安全～社会はあなたの新技術を受け入れるか～」第7回 リスク・コミュニケーションと社会心理学	1	71	無料	東京
イノベーションセンター	2014 2 21		日本機械学会連続講座(NEDO 共催)「法と経済で読み解く技術のリスクと安全～社会はあなたの新技術を受け入れるか～」第8回 規制権者としての国の責任	1	67	無料	東京

6・3 他団体との共催行事

開催年/月/日	行事名	題数	参加数	開催地	主催、幹事団体
2013 3 6 ~ 8	第62回理論応用力学講演会	269	441	東京	共催(機械力学・計測制御部門)
2013 3 14 , 15	第18回ロボティクス・シンポジウム	96	183	上山	共催(ロボティクス・メカトロニクス部門)
2013 4 18 , 19	第26回環境工学連合講演会—長期持続可能性への工学の役割—	22	150	東京	共催(環境工学部門)
2013 4 26	東北被災地訪問意見交換会	-	32	福島	共催
2013 5 22 ~ 25	第5回日韓機素潤滑設計生産国際会議(ICMDT2013) (兼 第13回機素潤滑設計部門講演会)	250	280	釜山	共催(機素潤滑設計部門)
2013 5 29 ~ 31	第50回日本伝熱シンポジウム	400	700	仙台	共催
2013 5 30 , 31	平成25年春季フルードパワーシステム講演会	48	131	東京	共催
2013 6 7 ~ 9	平成25年度塑性加工春季講演会	159	504	名古屋	共催
2013 7 4 , 5	安全工学シンポジウム2013	125	538	東京	共催
2013 7 29	4th UNISEC Space Takumi Conference	7	40	東京	共催(宇宙工学部門)
2013 7 29 ~ 8/2	第21回原子力工学国際会議(ICONE-21)	1,001	1,300	成都	共催(動力エネルギーシステム部門)
2013 8 5 ~ 8	第9回全国物理コンテスト 物理チャレンジ2013	-	1,460	つくば	共催
2013 8 6 ~ 8	ものづくりに挑戦!(未来への体験)	10	116	名古屋	共催(生産加工・工作機械部門)
2013 8 7	第55回構造強度に関する講演会	103	167	室蘭	共催
2013 8 10 , 11	第13回レスキューロボットコンテスト	-	5,921	神戸	共催(ロボティクス・メカトロニクス部門)
2013 8 29 ~ 31	第7回アジア太平洋バイオメカニクス会議	243	341	ソウル	共催(バイオエンジニアリング部門)
2013 10 9 ~ 11	第57回宇宙科学技術連合講演会	741	934	米子	共催
2013 10 23 ~ 27	第11回動力エネルギー国際会議2013(ICOPE-2013)	210	310	武漢	共催(動力エネルギーシステム部門)
2013 11 1 ~ 3	第64回塑性加工連合講演会	230	489	吹田	共催
2013 11 3	電通大杯ヒト型レスキューロボットコンテスト2013	10	200	寝屋川	共催(ロボティクス・メカトロニクス部門)
2013 11 9	第21回衛星設計コンテスト最終審査会	16	179	相模原	共催(宇宙工学部門)
2013 11 10 ~ 13	第24回国際シンポジウム「マイクロ・ナノメカトロニクスとヒューマンサイエンス」新学術領域シンポジウム「超高速バイオセンサ」	107	131	名古屋	共催(ロボティクス・メカトロニクス部門)
2013 11 17	つくばチャレンジ2013	42	350	つくば	共催(ロボティクス・メカトロニクス部門)
2013 11 19	公開シンポジウム「科学者が語る エネルギーの光と影」	5	188	東京	共催
2013 11 20 ~ 22	第34回日本熱物性シンポジウム	119	254	富山	共催
2013 11 25 , 26	第57回日本学術会議材料工学連合講演会	173	270	京都	共催
2013 11 26 ~ 28	第24回内燃機関シンポジウム—熱効率向上を支えるエンジンシステム技術—	96	423	神戸	共催(エンジンシステム部門)
2013 12 3 ~ 5	第20回鉄道技術連合シンポジウム(J-RAIL2013)	195	507	東京	共催(交通・物流部門)
2013 12 4 ~ 6	第51回燃焼シンポジウム	212	609	東京	共催
2013 12 19	先端計測技術の応用展開に関するシンポジウム—鉄鋼, 化学工学, エネルギー関連技術への適用技術—	25	50	徳島	共催
2014 2 7	理数系学力の強化とモノづくり人材育成の課題	2	100	東京	共催

7. イノベーションセンター事業に係る事項

イノベーションセンター：センター長 渡邊 政嘉 運営・企画委員会：委員長 渡邊 政嘉 他7名、開催3回

1. センター並びに所属委員会の規定、構成委員名簿を確認した。
2. センター並びにセンター所属委員会の、2013年度並びに2014年度実施事業計画と予算案について審議した。

7・1 技術者教育委員会

委員長 森下 信 他7名、開催4回

1. 学会プレゼンス向上(潜在・新規会員増強)と会員メリット向上(会員継続)に着目し、具体的な事業展開も含め、学会全体の教育・人材戦略についての議論を行った。
2. 将来的なCPDポイントの運営・活用について議論し、ポイント登録方法改定を提案した。また、JSMEエンジニア制度の創設を検討した。
3. 「技術士受験セミナー」について、7月にAコース(講習会)、5月にBコース(講習会)、10月にCコース(講習会)を実施した。
4. 日本工学教育協会主催 2013(平成25)年度工学教育連合講演会について、共催学会として10月に開催した。
5. 本学会誌8月号機械工学年鑑で「人材育成・工学教育」を執筆した。

7・2 人材活躍・中小企業支援事業委員会

委員長 中山良一 他11名、開催3回

1. 技術相談申し込みに対応し、一部は業務請負契約を締結した。技術相談対応件数：今年度13件。累計203件の相談件数となった。
2. ㈱ニコンの機械力学・材料力学の新人教育に会員シニアを講師として派遣。5月と7月に各々2名ずつ10日間のコースを担当した。5月と7月に、10日間2つのコースに各2名、4日間コースに1名、2日間コースに1名が担当した。材料力学基礎講座が追加となり、会員シニア1名を人選して講師として派遣。次年度継続予定。
3. 2014年1月に関東支部との合同企画・神奈川県中小企業診断協会協賛で、「中小企業診断協会と新現役(シニア人材)の連携の促進を図る」を実施した。

7・3 JABEE事業委員会

委員長 荒居善雄 他28名 開催2回

1. JABEEより認定・審査事業を受託した。
 - ・機械関連分野：新規・中間審査
 - ・工学一般関連分野：新規審査
2. JABEE機械関連分野分野別委員会(機械及び関連の工学分野/機械および機械関連分野のJABEE認定・審査活動全般について討議する)および分野別審査委員会(当該年度に行われる機械関連分野の審査について討議する)を組織した。
3. JABEE機械関連分野 分野別審査委員会の運営、工学一般関連分野への委員派遣を通じ、技術者教育プログラムの審査・認定に協力した。
4. JABEE理事会、認定会議、認定事業委員会、基準委員会、基準総合調整委員会、認定・審査調整委員会、広報・啓発委員会、国際委員会、一斉審査方式推進委員会、変更通知対応WG、審査方式・研修部会、拡大運営会議、審査事務連絡会に委員を派遣して、JABEEの運営や改善に協力した。
5. 年次大会にて「2013年度JABEE新人審査員研修フォーラム」(会場：岡山大学)と題して、審査員研修会を開催した。今回までの研修修了者のうち4名を今年度のオブザーバーとしてプログラム審査に派遣した。

7・4 機械状態監視資格認証事業委員会

委員長 松田博行 他15名、開催4回(臨時委員会1回含む)

1. 2013年度、振動2回およびトライボロジー分野3回の資格認証試験を実施した。
 - 《第1回(通計第19回)：2013年6月29日》
 - カテゴリI：申込者23名 受験者22名 合格者21名 合格率95.5%
 - カテゴリII：申込者109名 受験者103名 合格者81名 合格率78.6%

カテゴリIII：申込者51名 受験者47名 合格者34名 合格率72.3%

《第2回(通計第20回)：2013年11月30日カテゴリI、II、IV択一試験/2013年12月14日(カテゴリIV記述・面接試験)》

カテゴリI：申込者12名 受験者12名 合格者12名 合格率100.0%

カテゴリII：申込者138名 受験者129名 合格者111名 合格率86.0%

カテゴリIV：申込者5名 受験者5名 合格者2名 合格率40.0%

事業開始からの累計は受験者数4,673名、合格者3,756名となった。

【トライボロジー】

《第1回(通計第8回)：2013年7月13日》

カテゴリI：申込者48名 受験者48名 合格者34名 合格率70.8%

《第2回(通計第9回)：2013年12月7日》

カテゴリI：申込者57名 受験者54名 合格者32名 合格率59.3%

カテゴリII：申込者38名 受験者36名 合格者29名 合格率80.6%

《第3回(通計第10回)：2014年1月25日(筆記試験)/2014年2月8日(面接試験)》

カテゴリIII：申込者9名 受験者9名 合格者3名 合格率33.3%

事業開始からの累計は受験者数889名、合格者772名となった。
2. 2013年度、資格認証更新手続き(振動)を2回行った(2007年度第2回および2008年度第1回試験での認証者対象)。

《2007年度第2回試験対象》

カテゴリI：対象者24名 申請者21名 認証者21名 更新率87.5%

カテゴリII：対象者158名 申請者120名 認証者120名 更新率80%

カテゴリIII：対象者10名 申請者10名 認証者10名 更新率100%

カテゴリIV：対象者8名 申請者8名 認証者8名 更新率100%

《2008年度第1回試験対象》

カテゴリI：対象者26名 申請者20名 認証者20名 更新率76.9%

カテゴリII：対象者95名 申請者73名 認証者72名 更新率75.8%

カテゴリIII：対象者15名 申請者12名 認証者12名 更新率80.0%

カテゴリIV：対象者8名 申請者8名 認証者7名 更新率87.5%

3. 韓国騒音振動工学会(The Korean Society for Noise and Vibration Engineering=KSNVE)と年次ミーティングを行った。その際、資格認証についての状況報告を受けるとともに、現状の課題について議論・共有がなされた。

4. 米国VI(Vibration Institute)を訪問し、資格認証の状況、認証試験に対する品質保証およびISO17024の要員認証などに関して情報・意見交換がなされた。また、本会においてはISO17024の認定を取得していないため、VIとの相互認証契約は2013年12月をもって解消された。なお、相互認証契約は解消されたが、最新の情報を収集すべく今後も交流は続ける。

5. 「メンテナンス・テクノショー2013」(於東京ビッグサイト)に機械状態監視プラザを出展し、資格認証試験のPRやトライボロジーの啓蒙・普及などを行った。

6. 資格認証者の技術交流と技術力向上のためのフォローアップを目的とした「状態監視振動診断技術者コミュニティ第5回ミーティング」(於 アイ・エム・ワイ(imy))を実施した。また、HPにて国際情報をはじめ認証者に有益な情報を発信した。

7. 振動分野におけるマレーシアでの訓練・試験の実施へ向け訓練機関認定審査等諸準備を行った。

8. トライボロジー分野のカテゴリIII認証事業について、理

事会の承認を得て、本年度第3回試験として実施した。

9. 振動分野の訓練機関(2005年認定)の5社のうち4社について認定更新審査を実施し、認定更新をした。

7・5 計算力学技術者資格認定事業委員会

委員長 長嶋利夫(固体力学分野小委員会 委員長), 副委員長 店橋護(熱流体力学分野小委員会 委員長), 他14名, 開催3回

- 1・2級認定試験を2013年12月21日に実施した。今年度より新たに振動分野1級の認定をスタートした。また、付帯講習(技能編)を11月16日(九州会場)及び11月21日(関東会場)に実施した。受験者数、認定者(合格者)数は以下のとおり。申込者総数は前年度比117.8%となった。
 - ・固体1級(第10回): 申込者261名 受験者199名 合格者111名 合格率55.8%
 - ・固体2級(第11回): 申込者800名 受験者605名 合格者168名 合格率27.8%
 - ・熱流体1級(第7回): 申込者160名 受験者114名 合格者45名 合格率39.5%
 - ・熱流体2級(第9回): 申込者243名 受験者183名 合格者132名 合格率72.1%
 - ・振動1級(第1回): 申込者110名 受験者92名 合格者66名 合格率71.7%
 - ・振動2級(第2回): 申込者212名 受験者168名 合格者100名 合格率59.5%
2. 初級認定(書類審査)を隔月にて実施した。申込者数、認定者数は以下のとおり。
 - ・固体初級(第8回): 申込者95名 認定者95名 合格率100%
 - ・熱流体初級(第8回): 申込者23名 認定者23名 合格率100%
 - ・振動初級(第1回): 申込者15名 認定者15名 合格率100%
3. 最上位資格である上級アナリスト認定試験(一次試験: 書類審査, 二次試験: 面接審査)を実施した。申込数、認定者数は下記のとおり。
 - ・固体上級(第5回): 申込者9名 一次合格者9名 二次合格者(認定者)8名 合格率88.9%
 - ・熱流体上級(第5回): 申込者2名 一次合格者2名 二次合格者(認定者)2名 合格率100%
4. 事業開始からの累計は、受験者数10,189名, 合格者数5,309名, 合格率52.1%となった。
5. 下記の標準問題集の刊行を行った。
 - ・計算力学技術者1級(固体力学分野)標準問題集(第8版3刷)
 - ・同 2級(固体力学分野)標準問題集(第8版4刷)
 - ・同 1級(熱流体力学分野)標準問題集(第3版3刷)
 - ・同 2級(熱流体力学分野)標準問題集(第5版)
 - ・同 1級(振動分野)標準問題集(第1版)
 - ・同 2級(振動分野)標準問題集(第2版)
6. 第5回の資格更新審査(2013年3月末にて資格の有効期限を迎える認定者を対象)を行った。認定者数は以下のとおり。また、第6回の資格更新審査に向け、対象者に通知を行った。
 - ・固体1級: 対象者53名 申込者41名 更新率77.4%
 - ・固体2級: 対象者105名 申込者56名 更新率53.3%
 - ・固体初級: 対象者24名 申込者1名 更新率4.2%
 - ・熱流体1級: 対象者52名 申込者37名 更新率71.2%
 - ・熱流体2級: 対象者62名 申込者34名 更新率54.8%
 - ・熱流体初級: 対象者30名 申込者1名 更新率3.3%
7. 11月, 第26回計算力学部門講演会(於佐賀大学)の一部として『企業と大学の研究者・実務者が語るV&Vの本音』と題した認定計算力学技術者交流会を開催した。
8. 認定事業パンフレットを改定した。また、前年度受験者の所属企業, 公認CAE技能講習会実施団体等へポスターとともに配布し, 広報に努めた。
9. 資格認定試験実施費用に関する内規(案)を上程し承認された。
10. 英国のNPOであるNAFEMSの実施するPSEと, 本会の計算力

学技術者資格上級アナリストの国際相互認証に向けた試行を行った。2014年度のスタートを目指し, 認定手順の明確化や事業コストの見積もり等作成を進めた。

7・6 研究協力事業委員会

委員長 吉村 卓也 他7名, 開催3回

1. 現在進行中のRC分科会(RC254~262)とRC-D分科会(RC-D14)の活動状況・内容を確認した。
2. 分科会の活動を活性化するための新規分科会の掘り起こしを目的に, 部門所属分科会ならびに研究会(P-SCC分科会, P-SCD分科会, A-TS研究会)にRCならびにRC-D分科会への応募呼びかけを行った。
3. 次年度(2014年度)新設のRC分科会の応募研究テーマ(継続4件・新規1件)を採択した。これらに関しては2014年3月初旬までに, 申請状況等発足に必要な要件について, 調整・フォローする予定。
4. RS分科会(2013年度発足)の受託契約内容を確認し, 了承を得た。

7・7 JSME技術ロードマップ委員会

委員長 平澤 茂樹 他22名, 開催3回

1. 部門へ, 部門技術ロードマップの更新・作成・検討を依頼した。
2. 年次大会でワークショップ「技術ロードマップから提案する新たな国家プロジェクト」を開催した。
3. 日本学術会議第三部から「理学・工学分野における科学・夢ロードマップ」について2014年版への改訂原案作成協力依頼があり, 前回提出した3つの部門ロードマップを基に, 本協力に対応したロードマップ原案を検討した。

7・8 調査研究事業

RC250 環境のためのパワートレイン・トライロボジー研究分科会: 主査 伊東美美 他15名

1. 2011年4月設置。
2. 2013年6月に研究報告書を発行した。

RC251 次世代伝導装置のための超高強度歯車の設計, 製造, および材料評価技術に関する調査研究分科会: 主査 森脇一郎 他24名

1. 2011年4月設置。
2. 2013年4月に研究報告書を発行した。

RC252 低炭素社会実現に資する高効率ディーゼル機関の燃焼の最適化および高度化に関する研究分科会: 主査 飯田訓正 他22名

1. 2011年4月設置。
2. 2013年6月に研究報告書を発行した。

RC254 先端熱流体計測の計算との連携を含む新展開に関する研究分科会: 主査 早瀬敏幸 他39名, 開催4回

1. 2013年3月11日に第4回分科会を開催し3件の話題提供と4大学マイクロナノファブリケーションコンソーシアム施設の見学会を行った。
2. 2013年6月28日に第5回研究分科会を開催し3件の話題提供を行った。
3. 2013年9月19-20日に第6回研究分科会を開催し4件の話題提供と東北大学機械系施設の見学会を行った。
4. 2013年12月26日に第7回研究分科会を開催し3件の話題提供を行った。

RC255 先進的な計測技術と解析手法による燃焼現象の解明と技術進展に関する国際協力研究分科会: 主査 手崎奈 他42名, 2013年度開催合計5回

1. 2013年5月30日に第7回分科会を開催した。第4回の化学反応セミナーを実施するとともに, 燃焼に関連する化学反応の詳細に関連する話題提供が3件(寺島先生, 松木様, 桑原委員)なされた。
2. 2013年7月10日に第8回分科会を開催し, 第5回の化学反応セミナーを実施するとともに, 燃焼生成物の生成過程に関連する話題提供が3件(Kook先生, 神本先生, 林田先生)なされた。
3. 2013年9月30日に第9回分科会を開催し, 企業委員2社

(イメージアリング、フォトロン)からの話題提供があった。また、米国サンフランシスコにて開催されたIEA/TLMミーティングに関する報告を行った。

4. 2013年10月11日に第10回分科会を開催した。飛行時間型質量分析装置を製造している株式会社トヤマおよび関連した研究を行っている東京工業大学資源化学研究所藤井研究室の見学を行った。
5. 2013年12月16日に第11回分科会を開催し、企業委員2社(IDAJ, ナックイメージテクノロジー)からの話題提供とともに、エンジンの低温燃焼に関わる話題提供が3件(石山先生, 秋濱先生, 飯田委員)なされた。

RC256 エレクトロニクス実装のプロセスと製品における信頼性評価と熱制御に関する研究分科会: 主査 于強 他49名, 開催19回

1. 2012年4月設置。
2. 2012年3, 4, 5, 6, 7, 9, 10, 11, 12月に第1~8回分科会, 2013年1, 3, 4, 5, 6, 7, 9, 10, 11, 12月に第9~18回を開催し, CAE技術小委員会, 熱制御小委員会および実験・計測技術小委員会それぞれの研究を実施し, 研究者の研究成果報告や外部講師による話題提供を行った。
3. 2012年10月に第1小委員会基礎講習会(CAE), 2013年9月に第2小委員会基礎講習会(熱), 2012年11月および2013年9月に第3小委員会基礎講習会(実験・計測)を行った。
4. 2014年1月に第20回分科会を開催し, 実装信頼性評価, 熱制御技術および計測技術におけるWGの調査研究などの報告, 外部講師による話題提供などを行う予定である。

RC257 革新的工作機械技術に関する研究分科会 主査 新野秀憲 他80名, 開催5回
2012年4月設置

2013年3月~2014年2月期間において, 下記の研究分科会を開催した。

- ・5月31日に第7回研究分科会を新日本工機株式会社・生産本部・信太山工場にて開催し, 3件の話題提供および工場見学を行った。出席者71名。
- ・7月20日に第8回研究分科会を上智大学・四谷キャンパスにて開催し, 2件の話題提供と研究室見学を行った。出席者72名。
- ・10月4日に第9回研究分科会を株式会社IHI・航空宇宙事業本部・呉第2工場にて開催し, 3件の話題提供と工場見学を行った。出席者74名。
- ・11月29日に第10回研究分科会を東京農工大学・小金井キャンパスにて開催し, 4件の話題提供と研究室見学を行った。出席者59名。
- ・2月7日に第11回研究分科会を株式会社カシフジ・本社にて開催し, 工場見学を行った。出席者80名。

RC258 次世代シミュレーションソフトウェア検証評価に関する研究分科会 主査 大島伸行 他20名, 開催6回(2013年1月~2014年3月)

1. 2013年3月11日に北海道大学東京オフィスにて第5回分科会を開催。研究者委員(黒瀬)による話題提供, および, 研究者委員(大島, 伊藤, 坪倉)より各担当委員より検証課題WGの進捗報告を行った。大島主査より初年度実績が報告された(出席者18名うちTV会議参加2名)
2. 2013年5月14日に北海道大学東京オフィスにて第6回分科会を開催。企業委員・日比氏, 外部講師・今野氏による話題提供, および, 各担当委員より検証課題WGの進捗報告を行った。2年度実施計画について審議した(出席者16名うちTV会議参加1名)
3. 2013年8月21日に北海道大学東京オフィスにて第7回分科会を開催。研究者委員(大島, 坪倉)による話題提供, および, 研究者委員(大島, 伊藤, 坪倉)より検証課題WGの進捗報告を行った。また, 山本委員による来季研究分科会設置提案について検討した(出席者16名)
4. 2013年11月1日にJ R博多シティ会議室にて第8回分科会を開催。安倍委員による話題提供, および, 伊藤委員, 野津委員による検証課題WGの進捗報告を行った。(出席者15名)

5. 2014年1月23日に北海道大学東京オフィスにて第9回分科会を開催。坪倉委員による話題提供, および, 研究者委員(山本(代理・磯部), 大島, 伊藤(資料報告のみ), 安倍(資料報告のみ)より検証課題WGの進捗報告を行った(出席者14名)
6. 2014年3月に第9回分科会を開催し, 検証課題WGの最終報告を行う予定。

RC259 折紙工学の基盤技術の推進とその産業応用に関する調査研究分科会 主査 萩原一郎 他15名, 開催5回

1. 2012年4月設置
2. 企業側委員に個別に「折紙工学」の現状について説明した
3. 文部科学省主催のワークショップ「折紙工学の深化と適用拡大に貢献する現象数理学(オーガナイザー: 萩原一郎)」を配布。
4. 文部科学省主催のワークショップ「ヒト細胞・筋肉・臓器の幾何学的及び力学的解明とモデル化(オーガナイザー: 萩原一郎)」を配布。
5. 第3回~第6回をそれぞれ, 2013年4月9日, 11月26日に実施した。
6. 第7回委員会を3月28日開催予定

RC260 環境対策推進のためのパワートレイン・トライボロジー研究分科会 主査 伊東明美 他27名, 開催8回予定(2014年1月現在)。

1. 2013年4月設置
2. 2013年4月~2014年1月現在において下記の研究分科会を開催した。
 - ・2013年6月13日に第1回研究分科会を東京都市大学にて開催し, 1件の話題提供。及び1件のトライボロジー講座を行った。出席者29名。
 - ・2013年10月4日に第2回研究分科会を東京都市大学にて開催し, 1件のトライボロジー講座, 及び研究計画報告を行った。出席者37名。

RC261 歯車装置の設計・製造・評価における技術の高度化に関する調査研究分科会 主査 北條春夫, 幹事 藤井正浩, 黒河周平 他87名, 開催14回

1. 2013年4月設置
2. 以下の3つのワーキンググループを設置し調査研究活動を実施している。
 - ・歯車の超高強度化技術に関する調査研究: 実現のための設計・製造技術, 新材料評価法(CBF試験)と高強度化指針, 信頼性向上と最適化など(WG1)
 - ・歯車装置の運転性能の評価と改善技術の高度化に関する調査研究: 音振性能の現状と性能予測・向上技術, 効率改善技術など(WG2)
 - ・最新技術情報の収集と分析: 国際会議論文抄録集作成, 先端・最新歯車研究論文調査, 最新技術情報の収集と分析, 伝承のための技術情報整理など(WG3)
3. 全体分科会を下記により開催
 - ・2013年5月31日(於: 横浜)第1回分科会「発足会」(調査研究活動概要・研究計画説明, 技術講演2件, 特別講演1件)
 - ・2013年10月18日(於: 姫路)第2回分科会「第1回見学会」(山陽特殊製鋼株式会社, 技術講演1件)
 - ・2014年1月31日(於: 横浜)第3回分科会「遊星歯車装置の設計・製造技術の現状と課題」(技術講演5件)
4. 研究者側委員会の開催
 - 月1回の割合で開催。WGの調査研究活動状況の報告と意見交換および全体分科会の企画などについて議論。2013年4月(第1回)から2014年2月(第11回)の計11回開催。

RC262 低コスト・低エミッション・低燃費エンジンシステム構築に関する研究分科会 主査: 小川 英之(北海道大学大学院) 幹事: 佐藤 進(東京工業大学大学院) 委員: 41名(研究者側委員20名, 企業側委員19名) 他, 研究協力者16名, 顧問6名, オブザーバー6名 開催: 2回(2014年1月15日現在)

1. 分科会設置期間: 2013年4月~2015年3月
2. 第1回研究分科会(発足会議, 2013年6月25日): 冒頭

に小川主査より、RC262にて行う研究の方向性について説明した。引き続き各研究者委員のRC262において実施する研究計画の紹介を行った。個別テーマの紹介は班長が班内での位置づけ、および班内の連携内容も含めて行った。この研究計画に対して、企業側委員からの種々の質疑および要望を受け付けた。

3. 第2回研究分科会（2013年9月19日～20日）：年度内報告会として、研究者側委員が個別に行う研究について、研究計画の説明および経過報告を、各実施担当者より行った。十分な議論を行うため、2日間を費やしてその内容を精査した。
4. 第1回運営委員会（2013年9月20日）：運営方針および予算案について、主査および幹事より説明を行い了承された。
5. 第3回研究分科会（2014年3月17日～18日）：研究者側委員が個別に行っている研究について、平成25年度の研究成果報告会を実施予定である。

RC-D13 癒し工学研究分科会：主査 北岡哲子 他13名

1. 2011年4月設置。
2. 2013年3月に活動を終了した。

RC-D14 試作レス実現のための振動・騒音CAE技術の高度化に関する研究分科会 主査 鞍谷文保 他28名、開催4回

1. 2012年4月設置。
2. 分科会の開催：2013年度には4回の分科会を開催した（第4回を2014年3月に開催予定）。
第1回 2013年5月29日 基調講演1件（ポップリベットファスナー社 近藤様）、
プロジェクト研究進捗報告4件、参加者32名
第2回 2013年9月13日 基調講演1件（元日産自動車 丸山様）、
プロジェクト研究進捗報告4件、参加者32名
第3回 2013年12月11日 基調講演1件（三菱自動車 高阪様）、
プロジェクト研究進捗報告4件、参加者28名
第4回 2014年3月10日 基調講演1件、プロジェクト研究最終報告4件を予定
幹事会の開催：2013年5月29日に幹事会を開催し、分科会の運営・企画について協議した。

RS-23 「平成25(2013)年度 原子力の安全規制および対応にかかる調査」分科会：主査 岡本孝司

受託先：関西電力株式会社他全10社

受託契約日：2013年11月7日、受託請負契約金額：9,030,000円（税込）

1. 2013年11月設置
2. 原子力発電所の安全性向上への取り組み・検討に資するため、以下の調査及び検討を実施した。
 - ・欧州主要国における福島第一原子力発電所事故後のシビアアクシデントおよびFCVCSに対する事業者のプラント運営等に関する調査
 - ・米国でFCVCS規制要求がないこと背景調査
 - ・上記調査結果を踏まえて、我が国のプラント運営に反映すべき事項に等について、中立・公正な立場よりの検討・整理
3. 2014年3月に報告書をまとめ受託先へ提出予定
4. 分科会会員数：22名

8. 標準・規格センター事業に係る事項

標準・規格センター：センター長 辻 裕一 他7名，開催回数 4回

1. 運営・企画委員会傘下の各委員会の2013年度活動計画の審議と活動成果の評価を行うと共に、2014年度の予算審議を行った。
2. 標準事業表彰（貢献賞，国際功績賞，コードエンジニア賞）として3名を選考し，表彰部会・理事会へ上申した。
3. 平成25年度経済産業省工業標準化事業表彰経済産業大臣表彰（個人）候補者を検討した。
4. 平成25年度原子力安全功労者表彰候補者を検討した。
5. 経済産業省再委託事業「国際標準開発（滑り軸受）」，日本規格協会請負事業「国際規格回答原案作成」について審議し，所管理理事会の承認を得た。
6. 発電用設備規格委員会に対する外部支援に関し，電気事業連合会，日本電機工業会からの資金的ならびに人的支援の内容を確認した。

8・1 標準事業委員会

委員長 是永 敦 他6名，開催4回

1. 経済産業省の標準化テーマの調査を実施した。
2. 経済産業省の国際標準化活動実績及び活動計画の調査を実施した。
3. 日本工業規格の改廃について確認・検討を実施した。
4. 日本機械学会基準の制定原案を審議した。
5. 今年度年次大会特別企画ワークショップを実施し，次年度の年次大会特別企画ワークショップを検討した。

8・2 発電用設備規格委員会

委員長 森下正樹 他28名，開催4回

1. 「発電用原子力設備規格 設計・建設規格（2013年追補）＜第I編 軽水炉規格＞」の原案を策定し，公衆審査を実施し，制定した。
2. 「発電用原子力設備規格 設計・建設規格（2014年追補）＜第I編 軽水炉規格＞」の原案を策定した。
3. 「発電用原子力設備規格 設計・建設規格 事例規格 圧力容器用調質型合金鋼炭素鋼品SFVQ1Bに関する規定」の原案を策定し，公衆審査を実施し，制定した。
4. 「発電用原子力設備規格 設計・建設規格 事例規格 発電用原子力設備の設計・建設に関わる一般事項の適用」の原案を策定し，公衆審査を実施し，制定した。
5. 「発電用原子力設備規格 設計・建設規格（2013年追補）＜第II編 高速炉規格＞」の原案を策定し，公衆審査を実施し，制定した。
6. 「発電用原子力設備規格 設計・建設規格（2014年追補）＜第II編 高速炉規格＞」の原案を策定した。
7. 「発電用原子力設備規格 材料規格（2013年追補）」の原案を策定し，公衆審査を実施し，制定した。
8. 「発電用原子力設備規格 材料規格（2014年追補）」の原案を策定した。
9. 「発電用原子力設備規格 維持規格（2013年追補）」の原案を策定し，公衆審査を実施し，制定した。
10. 「発電用原子力設備規格 維持規格（2014年追補）」の原案を策定した。
11. 「発電用原子力設備規格 維持規格 事例規格 極限荷重評価法に用いる流動応力」の原案を策定し，公衆審査を実施し，制定した。
12. 「発電用原子力設備規格 維持規格 事例規格 耐震設計地震力取り扱い」の原案を策定した。
13. 「発電用原子力設備規格 溶接規格（2013年追補）」の原案を策定し，公衆審査を実施し，制定した。
14. 「発電用原子力設備規格 溶接規格（2014年追補）」の原案を策定した。
15. 「使用済燃料貯蔵施設規格 金属キャスク構造規格（2014年版）」の原案を策定した。
16. 「使用済燃料貯蔵施設規格 金属キャスク構造規格（2007年版）事例規格 バスケット用アルミニウム合金1%B-A3004N-H112に関する規定」の原案を策定し，公衆審査を実施し，制定した。
17. 「使用済燃料貯蔵施設規格 金属キャスク構造規格（2007年版）事例規格 バスケット用アルミニウム合金

A3004N-H112に関する規定」の原案を策定し，公衆審査を実施し，制定した。

18. 「使用済燃料貯蔵施設規格 金属キャスク構造規格（2007年版）事例規格 バスケット用アルミニウム合金A3004-H112に関する規定」の原案を策定し，公衆審査を実施し，制定した。
 19. 「発電用原子力設備規格 コンクリート製原子炉格納容器規格（2014年版）」の原案を策定した。
 20. 「発電用原子力設備規格 沸騰水型原子力発電所 配管減肉管理に関する技術規格（2014年版）」の原案を策定した。
 21. 「発電用原子力設備規格 加圧水型原子力発電所 配管減肉管理に関する技術規格（2014年版）」の原案を策定した。
 22. 「発電用原子力設備規格 外部事象シビアアクシデント対策設備設計ガイドライン（BWR編）」の原案を策定し，公衆審査を実施し，制定した。
 23. 「発電用原子力設備規格 シビアアクシデント時構造健全性評価ガイドライン（BWR鋼製格納容器編）」の原案を策定し，公衆審査を実施した。
 24. 「発電用原子力設備規格 シビアアクシデント時構造健全性評価ガイドライン（PWR鋼製格納容器編）」の原案を策定した。
 25. 「発電用原子力設備規格 シビアアクシデント時構造健全性評価ガイドライン（鉄筋コンクリート製原子炉格納容器）」の原案を策定した。
 26. 「発電用原子力設備規格 シビアアクシデント時構造健全性評価ガイドライン（コンクリート製格納容器）」の原案を策定した。
 27. 「発電用原子力設備規格 再処理設備規格 設計規格 201X年版」の原案を策定した。
 28. 「発電用原子力設備規格 再処理設備規格 維持規格 201X年版」の原案を策定した。
 29. 「発電用原子力設備規格 再処理設備規格 溶接規格 201X年版」の原案を策定した。
 30. 「発電用火力設備規格（201X年版）」の規格原案5件を策定した。
 31. 本会論文集（Note）への規格・基準記事掲載の継続的な投稿について検討し，投稿案を作成した。
 32. 電気事業連合会，日本電機工業会から，継続的な資金並びに人的支援が行われた。
 33. 発電用設備規格委員会ホームページの高度化に取組んだ。
 34. 「核融合設備規格 超伝導マグネット構造規格（2013年版）」の原案を策定し，公衆審査を実施し，制定した。
- [原子力専門委員会：委員長 小山幸司 他21名，開催4回]
1. 「発電用原子力設備規格 設計・建設規格（2013年追補）＜第I編 軽水炉規格＞」の原案を策定し，公衆審査を実施し，制定した。
 2. 「発電用原子力設備規格 設計・建設規格（2014年追補）＜第I編 軽水炉規格＞」の原案を策定した。
 3. 「発電用原子力設備規格 設計・建設規格 事例規格 圧力容器用調質型合金鋼炭素鋼品SFVQ1Bに関する規定」の原案を策定し，公衆審査を実施し，制定した。
 4. 「発電用原子力設備規格 設計・建設規格 事例規格 発電用原子力設備の設計・建設に関わる一般事項の適用」の原案を策定し，公衆審査を実施し，制定した。
 5. 「発電用原子力設備規格 設計・建設規格（2013年追補）＜第II編 高速炉規格＞」の原案を策定し，公衆審査を実施し，制定した。
 6. 「発電用原子力設備規格 設計・建設規格（2014年追補）＜第II編 高速炉規格＞」の原案を策定した。
 7. 「発電用原子力設備規格 材料規格（2013年追補）」の原案を策定し，公衆審査を実施し，制定した。
 8. 「発電用原子力設備規格 材料規格（2014年追補）」の原案を策定した。
 9. 「発電用原子力設備規格 維持規格（2013年追補）」の原案を策定し，公衆審査を実施し，制定した。
 10. 「発電用原子力設備規格 維持規格（2014年追補）」の原案を策定した。
 11. 「発電用原子力設備規格 維持規格 事例規格 極限荷